ブラジル国における農牧林業の生産流通状況（1991～1992）

〈平成5年〉

国際協力事業団サン・パウロ事務所
農　業　情　報　室

S P
J R
93－3

ブラジル国における農牧林業の生産流通状況（一九九一～一九九二）
国際協力事業団サ
JICA
703
SP
LIBRARY

ブラジル国における農牧林業の生産流通状況（1991～1992）

JICA LIBRARY
1110839[6]

国際協力事業団サン・パウロ事務所
農　業　情　報　室

国際協力事業団
25794

目 次

1 国内経済概況…… 1
1．1 1991年の国内生産状況…… 1
1．1．1 工業生産状況…… 2
1．1．2 エネルギー部門…… 4
1．1．3 農牧生産状況…… 7
1．2 対外部門…… 13
1．2．1 概 況…… 13
1．2．2 外国貿易及び為替政策…… 14
1．2．3 対外収支…… 15
1．2．4 貿易収支…… 16
イ） 輸 出…… 18
ロ） 輸 入…… 24
ハ） 貿易相手国…… 27
1．2．5 サービス収支…… 29
1．2．6 資本収支…… 30
1．2．7 対外債務及び外貨保有高…… 31
1．3 1992年度の経済指標…… 31
1．3．1 物価動向…… 31
1．3．2 貿易状況…… 33
1．3．3 農業生産状況…… 36

2 農業界の動向…… 38
2．1 主要農業政策…… 38
2．2 生産資材部門の動向…… 41
2．2．1 農 薬…… 41
2．2．2 肥 料…… 45
2．2．3 農業機械…… 51
2．2．4 種 子…… 53

3 主要農産物の生産流通状況…… 56
3．1 穀 類…… 56
3．1．1 とうもろこし…… 56
3．1．2 米…… 62
3．1．3 フェイジョン…… 66
3．1．4 ソルガム…… 70
3．1．5 小 麦…… 72
3．1．6 大 麦…… 75
3．1．7 からす麦…… 76
3．1．8 ライ麦…… 77

3．2　油脂原料作物…… 79
3．2．1　大　豆…… 79
3．2．2．綿…… 88
3．2．3　落花生…… 95
3．2．4　ヒ　マ…… 100
3．3　工業原料作物…… 103
3．3．1　砂糖キビ…… 103
3．3．2　マンジョカ…… 110
3．3．3　煙草葉…… 113
3．3．4　サイザル…… 115
3．3．5　ジュート及びマルバ…… 117
3．3．6　ラミー…… 119
3．4　嗜好作物…… 120
3．4．1　コーヒー…… 120
3．4．2　ココア…… 125
3．4．3　ピメンタ…… 129
3．4．4　グァラナ…… 131
3．5　果実類…… 132
3．5．1　オレンジ…… 132
3．5．2　バナナ…… 142
3．5．3　パイン・アップル…… 144
3．5．4　ぶどう…… 146
3．6　野菜類…… 147
3．6．1　じゃがいも…… 147
3．6．2　玉ねぎ…… 150
3．6．3　トマト…… 154
3．6．4　にんにく…… 156
3．7　牧畜部門…… 158
3．8　林業部門…… 162

〈図表索引〉

表 1 ＰＩＢ（国内総生産）成長率…… 1
表 2 ＰＩＢ（国内総生産）の推移…… 2
表 3 工業生産：部門別成長率…… 3
表 4 石油副産物及び燃料用アルコールの平均推定消費量…… 4
表 5 自動車の国内販売台数に占めたアルコール車の割合…… 5
表 6 電力消費量…… 6
表 7 ブラジルのエネルギーモデル　第１次エネルギーの生産量…… 6
表 8 ブラジルのエネルギーモデル　構成比率…… 7
表 9 過去５ヵ年間の農業生産状況（面　積）…… 10
表 10 過去５ヵ年間の農業生産状況（生産量）…… 11
表 11 過去５ヵ年間の農業生産状況（単　収）…… 12
表 12 1991年度の為替レート（各月末の自由レート）…… 15
表 13 ブラジルの対外収支…… 15
表 14 ブラジルの貿易収支…… 16
表 15 コーヒー：世界とブラジルの生産、消費、及び輸出量…… 18
表 16 砂　糖：世界とブラジルの生産、消費、及び輸出量…… 18
表 17 大　豆：世界とブラジルの生産、消費、及び輸出量…… 19
表 18 ココア：世界とブラジルの生産輸出…… 20
表 19 品目別輸出実績1990年、1991年対比…… 21
表 20 石油及び副産物の生産、輸出入及び消費量…… 24
表 21 小麦の生産、消費及び輸入…… 25
表 22 輸入実績1990年、91年対比…… 25
表 23 ブラジルの貿易相手国と実績…… 28
表 24 サービス収支…… 29
表 25 資本収支…… 30
表 26 ブラジルの外債にかゝわる指数…… 31
表 27 ＩＮＰＣ（全国消費者物価指数）…… 31
表 28 ＩＧＰ（総物価指数）…… 32
表 29 その他の指数…… 32
表 30 為替レート（月末レート）…… 32
表 31 1992年の月別貿易収支…… 33
表 32 1992年の輸出先市場…… 34
表 33 ブラジルの輸入…… 35
表 34 輸入実績…… 35
表 35 1991／92農年の生産状況（1992年10月調査）…… 36
表 36 92／93農年に対するＶＢＣの融資限度…… 39
表 37 大豆のＶＢＣ（生産費融資基準額）…… 39
表 38 ＶＢＣの年間調整率と他の指数との対比…… 40
表 39 92／93農年の最低保証価格…… 40

表 40 農薬の販売重量及び販売高…… 41
表 41 年度別農薬販売高対比（1－7月間）…… 42
表 42 ブラジルの農薬輸出入収支…… 43
表 43 農薬の平均価格推移（サン・パウロ市）…… 44
表 44 肥料の消費量及び在庫量…… 45
表 45 肥料1トンを購入するために必要とした農産物の量…… 46
表 46 作物別肥料消費量（合計量）…… 46
表 47 作物別肥料消費量（1haあたり）…… 47
表 48 州別肥料配布量…… 48
表 49 肥料及び原材料の国内生産推移…… 49
表 50 主要肥料及び原材料の国際価格（各年の6月時点）…… 49
表 51 肥料価格の推移（サン・パウロ市）…… 50
表 52 トラクター及び農業用機械の生産台数…… 51
表 53 トラクター（61CV）1台を購入するために必要とした作物の量…… 52
表 54 トラクター及び農業用機械類の販売台数…… 52
表 55 ブラジルの改良種子生産推移…… 53
表 56 サン・パウロ州の改良種子需給予想92／93…… 54
表 57 サン・パウロ州における穀類と種子の価格関係…… 55
表 58 とうもろこし：1991年の生産実績…… 56
表 59 とうもろこし：1992年の生産状況（92年10月調査）…… 56
表 60 とうもろこし：過去5ヶ年間の生産推移…… 57
表 61 とうもろこし：主要生産地の反収…… 58
表 62 とうもろこし：生産者受取価格（サン・パウロ州）…… 59
表 63 とうもろこし：とうもろこしの需給…… 59
表 64 とうもろこし：とうもろこしの生産コスト予想（92／93）A…… 61
表 65 とうもろこし：とうもろこしの生産コスト予想（92／93）B…… 61
表 66 米 ：1991年の生産実績…… 62
表 67 米 ：1992年の生産状況（92年10月調査）…… 62
表 68 米 ：過去5ヶ年間の生産推移…… 63
表 69 米 ：主要生産地の反収…… 63
表 70 米 ：米の国内需給バランス…… 64
表 71 米 ：収穫期（3－6月）の実質平均価格（92年7月ベース）…… 64
表 72 米 ：生産者受取価格（サン・パウロ州）92年7月をベースとした実質価格…… 65
表 73 米 ：米の生産コスト予想（92／93）陸稲…… 65
表 74 米 ：米の生産コスト予想（92／93）水稲…… 66
表 75 フェイジョン：1991年の生産実績…… 66
表 76 フェイジョン：1992年の生産状況（92年10月調査）…… 67
表 77 フェイジョン：過去5ヶ年間の生産推移…… 68
表 78 フェイジョン：主要生産地の反収…… 68
表 79 フェイジョン：生産者受取価格（サン・パウロ州）92年8月をベースとした実質価格…… 68
表 80 フェイジョン：フェイジョンの需給（供給）…… 69
表 81 フェイジョン：フェイジョンの需給（需要）…… 69
表 82 フェイジョン：フェイジョンの生産コスト予想（92／93）…… 70

表 83 ソルガム：1991年の生産実績…… 70
表 84 ソルガム：1992年の生産状況（92年10月調査）…… 71
表 85 ソルガム：過去5ヶ年間の生産推移…… 71
表 86 ソルガム：主要生産地の反収…… 71
表 87 小 麦：1991年の生産実績…… 72
表 88 小 麦：1992年の生産状況（92年10月調査）…… 72
表 89 小 麦：過去5ヶ年間の生産推移…… 73
表 90 小 麦：主要生産地の反収…… 74
表 91 小 麦：生産コスト予想（92／93）…… 74
表 92 大 麦：1991年の生産実績…… 75
表 93 大 麦：1992年の生産状況（1992年10月調査）…… 75
表 94 大 麦：過去5ヶ年間の生産推移…… 75
表 95 大 麦：主要生産地の反収…… 76
表 96 からす麦：1991年の生産実績…… 76
表 97 からす麦：1992年の生産状況（92年10月調査）…… 76
表 98 からす麦：過去5ヶ年間の生産推移…… 77
表 99 からす麦：主要生産地の反収…… 77
表 100 ライ麦：1991年の生産実績…… 77
表 101 ライ麦：1992年の生産状況（92年10月調査）…… 77
表 102 ライ麦：過去5ヶ年間の生産推移…… 78
表 103 ライ麦：主要生産地の反収…… 78
表 104 大 豆：1991年の生産実績…… 79
表 105 大 豆：1992年の生産状況（92年10月調査）…… 79
表 106 大 豆：過去5ヶ年間の生産推移…… 80
表 107 大 豆：主要生産地の反収…… 80
表 108 大 豆：10大油糧種子の世界需給…… 81
表 109 大 豆：国際市場相場…… 81
表 110 大 豆：大豆及び副産物の輸出実績…… 82
表 111 大 豆：大豆（豆）の輸出実績…… 83
表 112 大 豆：大豆（豆）の輸出先市場…… 83
表 113 大 豆：大豆粕の輸出推移…… 84
表 114 大 豆：大豆粕の輸出先市場（1992年）…… 85
表 115 大 豆：大豆油の輸出先市場（1992年）…… 85
表 116 大 豆：地方別生産者受取価格サン・パウロ州（1992年7月をベースとした実質価格）…… 86
表 117 大 豆：地方別生産者受取価格リオ・グランデ・ド・スール州…… 86
表 118 大 豆：地方別生産者受取価格ゴヤス州…… 86
表 119 大 豆：国内需給推定…… 87
表 120 大 豆：生産コスト予想（92／93）（A）…… 87
表 121 大 豆：生産コスト予想（92／93）（B）…… 88
表 122 綿 ：1991年の生産実績（草綿）…… 88
表 123 綿 ：1991年の生産実績（木綿）…… 89
表 124 綿 ：1992年の生産状況（92年10月調査）（草綿）…… 89
表 125 綿 ：1992年の生産状況（92年10月調査）（木綿）…… 89

表 126　綿　：過去5ヶ年間の生産推移（草綿）…… 90
表 127　綿　：過去5ヶ年間の生産推移（木綿）…… 90
表 128　綿　：主要生産地の反収（草綿）…… 90
表 129　綿　：主要生産地の反収（木綿）…… 90
表 130　綿　：世界の繰綿需給…… 92
表 131　綿　：綿の国際相場…… 92
表 132　綿　：実綿の生産者受取価格…… 93
表 133　綿　：ブラジルの繰綿需給…… 94
表 134　綿　：綿の生産コスト予想（92／93農年）A…… 94
表 135　綿　：綿の生産コスト予想（92／93農年）B…… 95
表 136　落花生：1991年の生産実績…… 95
表 137　落花生：1992年の生産状況（92年10月調査）…… 95
表 138　落花生：過去5ヶ年間の生産推移…… 96
表 139　落花生：主要生産地の反収…… 96
表 140　落花生：落花生の国際相場…… 97
表 141　落花生：落花生油の国際相場…… 97
表 142　落花生：世界の落花生油需給…… 98
表 143　落花生：生産者受取価格…… 98
表 144　落花生：生産コスト予想（92／93）A…… 99
表 145　落花生：生産コスト予想（92／93）B…… 99
表 146　ヒ　マ：1991年の生産実績…… 100
表 147　ヒ　マ：1992年の生産状況（92年10月調査）…… 100
表 148　ヒ　マ：過去5ヶ年間の生産推移…… 101
表 149　ヒ　マ：主要生産地の反収…… 101
表 150　ココヤシ：1991年の生産実績…… 101
表 151　ココヤシ：1992年の生産状況（92年10月調査）…… 101
表 152　ココヤシ：過去5ヶ年間の生産推移…… 102
表 153　ココヤシ：主要生産地の反収…… 102
表 154　砂糖キビ：1991年の生産実績…… 103
表 155　砂糖キビ：1992年の生産状況（92年10月調査）…… 103
表 156　砂糖キビ：過去5ヶ年間の生産推移…… 104
表 157　砂糖キビ：主要生産地の反収…… 105
表 158　砂糖キビ：サン・パウロ州内の砂糖キビ栽培適地面積…… 105
表 159　砂糖キビ：92／93農年の砂糖及びアルコール生産計画…… 106
表 160　砂糖キビ：エチール・アルコールの需給バランス…… 107
表 161　砂糖キビ：砂糖の輸出実績…… 107
表 162　砂糖キビ：砂糖（粗糖）の輸出先市場1992年…… 108
表 163　砂糖キビ：砂糖（結晶糖）の輸出先市場1992年…… 108
表 164　砂糖キビ：砂糖（精製糖）の輸出先市場1992年…… 109
表 165　砂糖キビ：砂糖キビの生産コスト推定サン・パウロ州、カンピーナス地方91／92農年…… 109
表 166　マンジョカ：1991年の生産実績…… 110
表 167　マンジョカ：1992年の生産状況（92年10月調査）…… 110
表 168　マンジョカ：過去5ヶ年間の生産推移…… 111

表 169　マンジョカ：主要生産地の反収…… 111
表 170　マンジョカ：生産者受取価格（サン・パウロ州）92年７月をベースとした実質価格…… 112
表 171　マンジョカ：マンジョカ粉の卸市場価格（サン・パウロ市）1992年７月をベースとした実質価格…… 112
表 172　マンジョカ：生産コスト予想（92／93）…… 113
表 173　煙草葉：1991年の生産実績…… 113
表 174　煙草葉：1992年の生産状況（92年10月調査）…… 113
表 175　煙草葉：過去５ヶ年間の生産推移…… 114
表 176　煙草葉：主要生産地の反収…… 114
表 177　煙草葉：煙草（葉）バージニア種の輸出先市場（1992年）…… 115
表 178　煙草葉：煙草（巻煙草）の輸出先市場（1992年）…… 115
表 179　サイザル：1991年の生産実績…… 115
表 180　サイザル：1992年の生産状況…… 116
表 181　サイザル：過去５ヶ年間の生産推移…… 116
表 182　サイザル：主要生産地の反収…… 116
表 183　ジュート：1991年の生産実績…… 117
表 184　ジュート：1992年の生産状況（92年10月調査）…… 117
表 185　ジュート：過去５ヶ年間の生産推移…… 117
表 186　ジュート：主要生産地の反収…… 118
表 187　マルバ：1991年の生産実績…… 118
表 188　マルバ：1992年の生産状況（92年10月調査）…… 118
表 189　マルバ：過去５ヶ年間の生産推移…… 118
表 190　マルバ：主要生産地の反収…… 119
表 191　ラミー：1991年の生産実績…… 119
表 192　ラミー：1992年の生産状況（92年10月調査）…… 119
表 193　ラミー：過去５ヶ年間の生産推移…… 120
表 194　ラミー：主要生産地の反収…… 120
表 195　コーヒー：1991年の生産実績…… 120
表 196　コーヒー：1992年の生産状況（92年10月調査）…… 120
表 197　コーヒー：過去５ヶ年間の生産推移…… 121
表 198　コーヒー：主要生産地の反収…… 121
表 199　コーヒー：コーヒー（豆）の輸出推移…… 122
表 200　コーヒー：インスタント・コーヒーの輸出推移…… 122
表 201　コーヒー：コーヒー（豆）の輸出先市場…… 122
表 202　コーヒー：インスタント・コーヒーの輸出先市場…… 123
表 203　コーヒー：生産コスト予想91／92サン・パウロ州１ha当り10俵（60Kg）収穫の場合…… 123
表 204　コーヒー：生産コスト予想91／92サン・パウロ州１ha当り20俵（60Kg）収穫の場合…… 124
表 205　コーヒー：生産コスト予想91／92サン・パウロ州１ha当り30俵（60Kg）収穫の場合…… 124
表 206　コーヒー：１ha当り30俵（60Kg）収穫の場合のコスト積算内訳…… 124
表 207　ココア：1991年の生産実績…… 125
表 208　ココア：1992年の生産状況（92年10月調査）…… 126
表 209　ココア：過去５ヶ年間の生産推移…… 126
表 210　ココア：主要生産地の反収…… 127
表 211　ココア：ココー（豆）の輸出推移…… 127

表 212　ココア：ココア・リコールの輸出推移…… 127
表 213　ココア：ココア・バターの輸出推移…… 127
表 214　ココア：ココア及び副産物の輸出先市場（1992年）…… 128
表 215　ピメンタ：1991年の生産実績…… 129
表 216　ピメンタ：1992年の生産状況（92年10月調査）…… 129
表 217　ピメンタ：過去５ヶ年間の生産推移…… 130
表 218　ピメンタ：主要生産地の反収…… 130
表 219　ピメンタ：輸出先市場（1992年）…… 130
表 220　グァラナ：1991年の生産実績…… 131
表 221　グァラナ：1992年の生産状況（92年10月調査）…… 131
表 222　グァラナ：過去５ヶ年間の生産推移…… 132
表 223　グァラナ：主要生産地の反収…… 132
表 224　オレンジ：1991年の生産実績…… 132
表 225　オレンジ：1992年の生産状況（92年10月調査）…… 133
表 226　オレンジ：過去５ヶ年間の生産推移…… 134
表 227　オレンジ：主要生産地の反収…… 134
表 228　オレンジ：ニューヨーク取引市場の濃縮オレンジ・ジュース相場…… 135
表 229　オレンジ：濃縮オレンジ・ジュースの輸出推移（歴年）…… 137
表 230　オレンジ：濃縮オレンジ・ジュース：輸出先国別実績（1991年１－12月）…… 138
表 231　オレンジ：濃縮オレンジ・ジュース：輸出先国別実績（1991年／92農年）…… 138
表 232　オレンジ：濃縮オレンジ・ジュース：対日輸出状況（91／92農年）…… 138
表 233　オレンジ：対日輸出会社と実績…… 139
表 234　オレンジ：オレンジ濃縮ジュースの輸出会社と輸出実績（92年７月～93年２月）…… 139
表 235　オレンジ：かんきつ部門の輸出状況（92年７月～93年２月間）…… 141
表 236　オレンジ：１箱当りオレンジ生産者価格の推移…… 142
表 237　バナナ：1991年の生産実績…… 142
表 238　バナナ：1992年の生産状況（92年10月調査）…… 143
表 239　バナナ：主要生産地の反収…… 143
表 240　バナナ：過去５ヶ年間の生産推移…… 144
表 241　パイン・アップル：1991年の生産実績…… 144
表 242　パイン・アップル：1992年の生産状況（92年10月調査）…… 144
表 243　パイン・アップル：過去５ヶ年間の生産推移…… 145
表 244　パイン・アップル：主要生産地の反収…… 145
表 245　ぶどう：1991年の生産実績…… 146
表 246　ぶどう：1992年の生産状況（92年10月調査）…… 146
表 247　ぶどう：過去５ヶ年間の生産推移…… 146
表 248　ぶどう：主要生産地の反収…… 147
表 249　じゃがいも：1991年の生産実績…… 147
表 250　じゃがいも：1992年の生産状況（92年10月調査）…… 147
表 251　じゃがいも：過去５ヶ年間の生産推移…… 148
表 252　じゃがいも：主要生産地の反収…… 148
表 253　じゃがいも：雨期じゃがいもの生産コスト予想（92／93農年）…… 149
表 254　じゃがいも：乾期作じゃがいもの生産コスト予想（92／93）…… 150

表 255　玉ねぎ：1991年の生産実績…… 150
表 256　玉ねぎ：1992年の生産状況（92年10月調査）…… 151
表 257　玉ねぎ：過去５ヶ年間の生産推移…… 151
表 258　玉ねぎ：主要生産地の反収…… 152
表 259　玉ねぎ：生産コスト予想（92／93）…… 153
表 260　玉ねぎ：生産コスト予想（92／93）…… 153
表 261　トマト：1991年の生産実績…… 154
表 262　トマト：1992年の生産状況（92年10月調査）…… 154
表 263　トマト：過去５ヶ年間の生産推移…… 155
表 264　トマト：主要生産地の反収…… 155
表 265　トマト：トマト（食卓用）の生産コスト予想（92／93）…… 155
表 266　トマト：トマト（工原材料用）の生産コスト予想（92／93）…… 156
表 267　にんにく：1991年の生産実績…… 156
表 268　にんにく：1992年の生産状況（92年10月調査）…… 157
表 269　にんにく：過去５ヶ年間の生産推移…… 157
表 270　にんにく：主要生産地の反収…… 158
表 271　牧畜部門：主要家畜飼育数…… 158
表 272　牧畜部門：家畜屠殺数…… 159
表 273　牧畜部門：冷凍牛肉輸出先市場…… 160
表 274　牧畜部門：コンビーフの輸出先市場…… 160
表 275　牧畜部門：冷凍ブロイラーの輸出先市場…… 161
表 276　牧畜部門：牛・豚・鶏の価格…… 161
表 277　牧畜部門：牛・豚・鶏の価格（ドル換算）…… 161
表 278　林業部門：木材・木炭及び薪の生産量…… 162

1　国内経済概況

1991年の概況

ブラジル中央銀行の年次報告書によると1991年における国内生産、物価動向、雇用、国内投資、対外取引き等の状況は次の通りである。

1・1　国内生産状況

91年における国内の経済活動は、第1四半期に前年の第4四半期と比較して大巾な落ち込みがあったものゝ第2四半期以降回復し年末にかけて成長傾向を迎えた。しかし、この回復の動きも下半期に実施された経済安定政策（公共収支及び投資の抑制）により中断され、結果的に91年のＰＩＢ（国内総生産高）を前年比 0,9％の増加に止めることとなった。このように年間を通じたＰＩＢは、殆んど成長のない状況に終ったが前年に記録された(-)4％のマイナス成長と比較して満足すべき結果であったとされている。

表1　　ＰＩＢ（国内総生産）成長率　　％

部　門　別	1987	88	89	90	91
農業部門	14,9	0,9	2,5	-3,7	2,6
工業部門	1,1	-2,6	2,9	-8,0	-0,8
(鉱　業)	(-0,8)	(0,4)	(4,0)	(2,7)	(0,3)
(製造業)	(1,0)	(-3,4)	(2,9)	(-9,5)	(-0,7)
(建　築)	(1,1)	(3,0)	(3,3)	(-8,4)	(-4,0)
(公共工業サービス)	(3,3)	(5,8)	(1,6)	(1,8)	(4,3)
サービス部門	3,3	2,3	(3,9	-0,7	2,0
(商　業)	(2,5)	(-2,7)	(3,0)	(-6,4)	(1,2)
(輸　送)	(4,6)	(4,2)	(3,8)	(-3,1)	(2,5)
(通　信)	(9,1)	(10,6)	(19,2)	(9,0)	(19,6)
(金　融)	-4,7	(0,3)	(1,4)	(-3,1)	(-8,0)
(公　共)	2,1	(2,1)	(2,1)	(2,1)	(2,1)
平　均	3,6	-0,1	3,3	-4,0	0,9

出所：ＩＢＧＥ

ドルに換算したＰＩＢ（国内総生産高）は、９１年において418,270 百万ドルと推定されており、同年の推定人口（153.4 百万人）で除した１人当り所得は、前年を(-)1,1％減少するUS$ 2.726,80となっている。たゞし1989～91年の３ヶ年平均でみるとUS$ 2.696,62で前期（1986～88年）の平均US$ 2.521.92を6,9 ％上廻るものである。

産業部門別にみると農牧部門は、前年比2,1 ％成長しており、前年に記録された(-)3,7％の減速傾向を回復した。この中、農牧部門を構成する農業部門は1,8 ％、牧畜部門が2,5 ％の成長であった。

工業部門では、90年に始ったリセッション傾向が継続しており、第１四半期には、前年の第４四半期比(-)15,6 ％の大巾な下落をみたが年間を通じてこれを回復し、年度末には(-)0,8％までこぎつけている。

第３次部門のサービス分野は、全部門の中でもっとも高い指数を残しており、91年中に2,0 ％の成長が記録されている。中でも通信部門における19,6％の成長率が全体の成長を支える要素となっている。この他商業部門が1,2 ％、輸送部門が2,5 ％、公共サービス部門が2,1 ％の成長、金融部門のみが(-)8,0の後退であった。

表2　　ＰＩＢ（国内総生産）の推移

年度	ドル換算額 100万ドル (1990年価格)	指数 (1980＝100	年間成長率 (%)	推定人口 (100万人)	1人当り所得 US$ (1991年価格)	指数 (1980=100)
1981	340,178	95,6	-4,4	124,1	2.741,87	93,5
82	342,219	96,2	0,6	126,9	2.696,80	91,9
83	330,584	92,9	-3,4	129,8	2.547,54	86,8
84	348,105	97,8	5,3	132,7	2.624,06	89,4
85	375,605	105,6	7,9	135,6	2.770,68	94,4
86	403,775	113,6	7,5	138,5	2.915,49	99,4
87	418,311	117,7	3,6	141,5	2.957,27	100,9
88	417,893	117,6	-0,1	144,4	2.893,43	98,7
89	431,683	121,4	3,3	147,4	2.928,57	99,9
90	414,416	116,5	-4,0	150,4	2.756,01	94,0
91	418,270	117,6	0,9	153,4	2.726,80	93,0

出所：ＩＢＧＥ

１・１・１　工業生産状況

1991年を通じた工業部門の生産レベルは、前年比(-)0,7％の後退で前年の(-)8,6％にひきつゞき２年連続のマイナス成長を続け、リセッションをまともに受けた形が示されている。

工業生産部門は、その97％が製造工業部門、３％が鉱業部門によって構成されている。従って製造工業部門の動向が工業生産部門を代表することゝなる。1991年における製造工業部門の成長率は、前年の90年にみられた(-)9,5％の大巾な減速のあと91年の第１四半期には、(-)16,6 ％という大巾な落ち込みをみせたが、第２四半期以降回復し、年間を(-)0,7％の指数に止めた。製造工業部門の中で高い成長を示したのは、製紙の５％、香料石ケンにおける5,3 ％、飲料5,0 ％、化学4,3 ％及び食品の4,0 ％であるが、工業部門の生産高形成に大きな比重を占める機械部門が工業部門の中でも、もっとも大きな生産減少(-12,6％）を招いたことが全体の低位成長率に影響したものであった。

工業部門の生産高に占める比重は、僅少（３％）であるが鉱業部門でも前年の2,7 ％の成長率を91年には、0,3 ％に落している。天然ガスと鉄鉱石の生産高が鉱業部門を代表する部門である。

財の使用目的別にみると製造工業部門でもっとも大きな割合いを占める中間財では、わずかながら1,3 ％の成長で前年に記録された(-)8,5％の大巾な減速を回復した。中間財の成長に大きく影響したのは、農牧部門に向けられる財(3,0％）、建築資材(2,4％）及びエネルギー資材(2,1％）の生産であった。

資本財の生産は、前年の(-)15,5 ％の大型減産のあとをついで91年にも(-)10,7 ％とマイナス成長が継続した。資本財の中では、建築用機械の減産率が大きく(-)36,0 ％、農業用機械の生産も又、前年を(-)27,2 ％落すものであった。

消費財部門では、耐久消費財が前年比4,1 ％の成長を示したのに対し、非耐久消費財が(-)1,2％のマイナス成長を記録したゝめ全体を平均すると成長率は０であった。耐久消費財の成長を支えたのは、自動車部門の中、乗用車の生産増加にもとづくものであり、これに対し非耐久消費財の生産を落したのは、衣料品、繊維製品の生産減少にもとづくものであった。

工業部門を構成する各分野の生産経緯をみると鉱業部門では、鉄鉱石の生産量は109.415 千トンで前年（90年）の109.547 千トンとほゞ同規模を維持したが、販売量は127.020 千トンで前年を2,3 ％上廻った。海外市場に対する販売が77,0％を占めた。製鉄部門では、銑鉄の生産量が22.695千トンで前年比7,4 ％増、粗鋼の生産も22.617千トンと前年比10％上廻るものであった。鉄鋼半製品の生産量は、5.899 千トンで前年を20％上廻り、この中4.439 千トンが海外に向けられたが、これも前年を26,0％上廻るものであった。薄板の生産は、90年の8.765 千トンに対し91年は、9.407 千トン、これに対し非薄板は前年を(-)7,1％落した5.536 千トンであった。薄板、非薄板の輸出合計は、6.144

千トンでここでも前年比19,8％の増加が記録されている。

1991年におけるセメントの生産量は、27.257千トンで前年を5,5 ％の増加であった。セメントの国内推定消費量は、生産量とほゞ同一であり、国内では南東地方が57,0％、南部地方が6,9 ％、東北地方が14,9％の消費割合となっている。

タイヤ工業部門におけるゴムの消費量は、242,3 千トンで前年よりも(-)3,2％減、タイヤの生産量も28.928千個で前年を(-)0,8％下廻った。タイヤ生産総量の中、乗用車用タイヤが70％を占めている。販売量は前年とほゞ同様で1990年が28.523千個に対し、91年は28.699千個、この中24,2％が海外に販売された量であった。

1991年中、自動車工業部門は、部門内のストの他、部品工業界や港湾ストなど連続したスト攻勢に毎月の定期的生産がさまたげられたが、前年を5,0 ％増加する年間960.3 千台の生産を達成することを得た。国内市場への販売台数は、771,0 千台で8,2 ％の増加、輸出も又90年の187.3 千台より91年は、193.0 千台と伸びている。

国内のトラクター生産量は５年間連続して下降しており、91年も又前年を(-)33,8 ％下廻る21.391台に止まった。国内市場向販売台数は、90年の27.413台より91年には18.186台に落ちており、輸出台数も又前年を(-)14,4 ％下廻る4.157 台であった。

家電製品の国内販売は、一部に売上の増加があったものゝ、全般に大巾な下落であった。これに対し電子製品の中では、ビデオ・カセット及びカラーＴＶの前年比それぞれ24,3％及び5,6 ％の販売増加が特筆される。

表３　　工業生産：部門別成長率　　(%)

区分	生産高比率 (1980 年度センサス)	成長率 1987	1988	1989	1990	1991
鉱業部門	2,93	- 0,8	0,4	4,0	2,7	0,3
製造工業部門	97,07	1,0	- 3,4	2,9	- 9,5	- 0,7
計	100,00	0,9	- 3,2	2,9	- 8,9	- 0,7
製造工業部門別内訳						
非鉄金属	6,38	2,3	- 4,2	3,8	-11,0	1,5
金　属	12,63	0,4	- 3,2	5,0	-12,6	- 0,2
機　械	11,02	4,0	- 8,6	5,0	-16,9	-12,6
電気、通信機器	6,97	- 2,2	- 4,4	5,7	- 5,5	- 4,5
輸送機器	8,30	-10,2	9,1	- 2,8	-15,9	0,3
製　紙	3,32	3,6	- 1,6	5,6	- 6,2	5,6
ゴ　ム	1,39	3,6	2,1	- 1,9	- 4,4	0,8
化　学	16,10	5,5	- 3,0	- 0,3	- 8,1	4,3
薬　品	1,80	2,4	-14,2	4,7	- 9,7	2,5
香料石けん	0,95	12,2	- 7,8	11,5	- 5,7	5,3
プラスチック	2,67	- 4,2	- 7,2	12,4	-15,6	- 1,1
繊　維	7,02	- 0,6	- 6,1	0,5	-10,1	- 5,3
衣料、靴	5,31	- 9,6	- 6,8	1,8	-14,0	-13,2
食　品	11,02	6,8	- 2,4	1,3	1,8	4,0
飲　料	1,33	- 3,4	2,2	14.7	2,3	5,0
煙　草	0,86	2,1	1,0	5,1	- 1,3	1,5
使用目的別分類						
資本財	10,10	- 1,8	- 2,1	0,3	-15,5	-10,7
中間財	56,00	1,1	- 2,1	2,4	- 8,7	1,3

消　費　財	33,90	0,1	- 3,5	3,6	- 5,3	0,0
耐久消費財	5,90	- 5,4	0,6	2,4	- 5,8	4,8
非耐久消費財	28,00	1,4	- 4,4	3,9	- 5,2	- 1,2

出所：ＩＢＧＥ

１．１．２　エネルギー部門

鉱山動向省が発表する国家エネルギー・バランス（BALANÇO ENERGÉTICO NACIONAL）のデータによると国内における第１次エネルギーの生産は、1990年に投資の不足による再生可能エネルギー（水力、薪、アルコール等）の減産を原因として前年を(-)1,4％減少する108.718 千TEP（石油換算トン数）に落ちたのに対し、地下資源による第１次エネルギー源（石油、天然ガス、石炭、ウラン）の生産は、前年を2,5 ％増加した39.912千TEP で合計148.630 千 TEP の生産であった。

第１次エネルギーの消費は、1989年の185.415 千TEP より90年には前年を(-)2,1％減少する181.401 千TEP に減少、輸出も又(-)0,7％減の36.669千TEP あった。国内エネルギーに占めた輸入エネルギーのシェアーは、約20％で過去６年間の平均値を維持した。この中石油の国内総エネルギー消費に占めた割合は、前年の19,8％より90年は20,5％へと増加している。

天然ガスを含めた石油の国内生産は、90年に１日あたり653 千バレルに達したあと91年は、646 千ドレルに落ちた。これに対して石油副産物の推定消費量は、90年の1.176,1 千バレルより91年には、1.198,3 千バレルに増加したゝめ石油の国内消費量に占める国産品の割合いは、90年の55,5％より91年は53,9％へと減少している。この間石油の輸入は、560 千バレル／１日より526 バレル／１日へと減少した。

表4　　石油副産物及び燃料用アルコールの平均推定消費量　　1.000バレル／１日

内　　訳	1990			1991		
	量	前年比(%)	構成比(%)	量	前年比(%)	構成比(%)
石油副産物						
燃　料　油	180,8	- 4,9	15,4	177,5	- 1,8	14,8
ガソリン	162,9	14,4	13,9	176,5	8,3	14,7
ディーゼル油	422,4	- 1,9	35,9	440,9	4,4	36,8
液体ガス	157,6	5,3	13,4	157,5	0,0	13,1
飛行機用ケロシン	49,6	- 1,2	4,2	52,1	5,0	4,3
そ　の　他	200,8	0,7	17,2	193,8	- 4,4	16,3
計	1.176,1	1,0	100,0	1.190,3	1,9	100,0
燃料用アルコール						
無　　水	- 21,1	-29,0	10,8	28,5	35,1	13,8
含　　水	174,3	- 7,0	89,2	178,3	2,3	86,2
計	195,4	-10,0	100,0	206,8	5,8	100,0

出所：ＤＮＣ

ＰＥＴＲＯＢＲＡＳ（石油公団）が持つ石油精製施設の91年度における能力は、241.6 千m^3／１日で前年と変りなかったが精製量は前年の70.6百万m^3より62.7百万m^3へと減少した。このように国内石油の精製量は減少したもの、全精製量に占めた割合いは90年の54,7％より91年には55,4１％へと増加している。

国内の石油埋蔵量は1991年において30億バレルと推定されており、前年の評価量を8,0 ％増加した。地域別では、大陸棚における埋蔵量が前年を12,5％増加して23億バレルと推定されているのに対し、陸地の埋蔵量は(-)4,7％の減少となっている。

石油の発掘及び生産に対して行われた直接投資は、1990年が885億クルゼイロ、91年は6.097億クルゼイロであった。ＩＧＰ－ＤＩ（注：ゼッツリオ、ヴァルグァス経済研究所が算出している総物価指数）により、この２年間のインフレ率を除外して実質金額で比較する場合、91年の投資額は前年を18,7％上廻るものであった。陸地及び大陸棚で行われたボーリングは全長延560千m^3で前年よりは(-)5,7％少ないものであった。

生産中の油田（井戸）数は、1990年の5.685ヶより91年は5.976ヶ、天然ガスの油田も81から90へと増加した。天然ガスの生産量は、前年を5,1％増加した66億m^3であった。天然ガスの生産コストが低いことから政府はその利用を奨励しており、エネルギーの対外依存軽減のための手段の一つとしたい意向である。

石油副産物の消費量は、91年中に1,9％の増加をみた。これは90年と比較して91年の国内経済活動が回復に向ったためと解釈されている。なお燃料価格の調整は、年間を通じてインフレ率を下廻る率であった。

ガソリンの消費は、90年にみられた前年比14,4％の大巾な増加に続いて91年も前年を8,3％上廻っており、１日当りの消費量は、176,5千バレルであった。これは、過去２ヶ年間にわたってみられた国内アルコール不足を反映してガソリン車の割合が増加したことを反映するものである。

ガソリンと同様にディーゼル油の消費量も又前年を4,4％上廻る440.9バレル／１日に増加したが、これは主に農業生産の復活にもとづくものであった。又液体ガスの消費量は、157.5千バレル／１日で変化はなく、燃料油の消費量は、前年を(-)1,8％減少した177.5バレル／１日であった。

91／92農年のアルコール生産は、例年の通り４月より開始されたが、1991年末までに前年比9,1％増の12.027百万㎥を生産している。この中、10.091百万㎥が含水アルコール、1.936百万㎥が無水アルコールであった。１－12月間の暦年統計によると1991年の無水、含水を合せたアルコールの生産合計は、12.862百万㎥で前年を8,9％上廻るものであった。

アルコールの生産増加は、前年にみられた供給問題を解決し、プロアルコール（国家アルコール計画）の目標の一つであるアルコール車の生産普及を復活することを期待させるものがあった。アルコール車の自動車販売台数に占めた比率は、乗用車の場合を例にとると1987年に達した94,4％を頂点としたあと減少し、アルコールの供給危機が発生した、1990年には全体でわずかに16,8％に落ち、プロアルコール開設以来最悪の事態に直面することゝなった。1991年は、やゝ回復したものゝ、その比率は18,2％と低く、その他の車を含めた総販売台数では依然として16,2％という低率が続いた。

表５　　自動車の国内販売台数に占めたアルコール車の割合　　1.000台

種類別	年度	総販売台数	内アルコール車	アルコール車の比率(%)
乗用車	1986	672	619	92,1
	87	410	387	94,4
	89	557	492	88,3
	89	567	346	61,0
	90	310	52	16,8
	91	710	129	18,2
軽商業車	1986	114	78	68,2
	87	104	72	69,2
	89	123	74	60,2
	89	138	54	39,1
	90	76	8	11,2
	91	172	22	12,7

出所：ＡＮＦＡＶＥＡ

アルコールの生産は、増加したもの、国内供給と戦略用の在庫（約１ヶ月分の消費量）を確保するためには十分ではなく、その補給として 943百万リットルのエチール・アルコール及びメタノールの輸入が前年に引き続き行われた。

国内の第１次エネルギー源としてもっとも重要な水力発電は、90年において国のエネルギー源に約40,2％の比重を占めており、91年も41,3％の生産シェアーであった。

1991年における電力エネルギーの消費量は、214.667GWhで前年を4,5 ％上廻った。年間総消費量の50％を占める工業部門の電力消費量は、とくに下半期における工業生産活動の回復を反映した3,1 ％の増加を示し、又、総消費量の23,8％を占める一般家庭用電力消費も前年を6,7 ％増加、商業用電力も5,2 ％の増加が記録されている。

ELETROBRAS（ブラジル電力公社）のデータによるとブラジルの電力生産ポテンシャルは260.000MW といわれているが、これは石油に換算して１日当り700 万バレルの量に相当する。1991年における国内電力会社の設備能力は56.298 MWで、91年中には前年の能力を1.095MW 増加した。91年中に操業に入った発電施設は、イタイプー(700MW) ツクルイ(330MW) ボア・エスペランサ(65MW)であった。

表6　　電力消費量

区　　分	1990年			1991年		
	GWh	構成比(%)	前年比(%)	GWh	構成比(%)	前年比(%)
部門別						
工　業	104.763	51,1	- 2,3	107.975	50,3	3,1
住　宅	47.884	23,3	9,6	51.080	23,8	6,7
商　業	23.685	11,5	5,8	24.918	11,6	5,2
その他	29.022	14,1	3,0	30.694	14,3	5,8
地区別						
南東部	128.159	62,4	0,3	131.183	61,1	2,4
東北部	31.366	15,3	4,1	33.780	15,7	7,7
南　部	28.311	13,8	2,7	29.946	14,0	5,8
北　部	8.803	4,3	14,3	10.475	4,9	19,0
中西部	8.715	4,2	6,2	9.283	4,3	6,5
計	205.353	100,0	2,0	214.667	100,0	9,5

出所：ELETROBRAS

ブラジルのエネルギーモデル

表7　　第１次エルルギーの生産量　　（100万TEP）

エネルギー源	1971	1980	1990	1991
地下資源エネルギー				
石　油	8,4	9,1	33,0	32,7
天然ガス	1,1	2,1	6,1	6,4
燃料炭	0,6	1,5	1,6	1,9
原料炭	0,5	1,0	0,3	0,1
ウラン	-	-	-	-
小計	10,6	13,7	41,0	41,1
再生可能エネルギー				
水力発電	12,5	37,4	59,9	63,2

薪	31,8	30,7	28,2	27,1
砂糖キビ製品	3,8	9,0	17,9	19,5
そ の 他	0,2	1,0	2,2	2,2
小 計	48,3	78,1	108,2	112,0
合 計	58,9	91,8	149,2	153,1

出所：BALANÇO ENERGÉTICO NACIONAL 1992

表8　　構 成 比 率　　(%)

エネルギー源	1971	1980	1990	1991
地下資源エネルギー				
石 油	14,2	9,9	22,2	21,3
天然ガス	1,9	2,3	4,1	4,2
燃 料 炭	1,0	1,6	1,0	1,2
原 料 炭	0,9	1,1	0,2	0,1
ウ ラ ン	0,0	0,0	0,0	0,0
小 計	18,0	14,9	27,5	26,8
再生可能エネルギー				
水力発電	21,2	40,7	40,2	41,3
薪	54,0	33,4	18,9	17,7
砂糖キビ製品	6,5	9,9	12,0	12,7
そ の 他	0,3	1,1	1,4	1,5
小 計	82,0	85,1	72,5	73,2
合 計	100,0	100,0	100,0	100,0

出所：BALANÇO ENERGÉTICO NACIINAL 1992

1．1．3　農牧生産状況

農牧部門は、前年に記録された(-)3,7％の減速のあと1991年には2,1 ％の実質成長を残している。農業部門における1,8 ％、牧畜部門における2,5 ％増の結果にもとづくものである。

油脂作物を含む穀類生産の合計は、前年と同規模の56.1百万トンに止まった。91年も前年と同様に植付時期における農業融資の不足、主要生産地帯における天候不順、特に南部地方における乾燥の被害が増産を阻止した要因であった。

2年連続した農業生産の不振は、農産物価格の上昇を招いてインフレに拍車をかけた他、基礎食糧の外国依存が継続したゝめ、政府は、農業政策の見通しを余儀なくされ、最低価格の大巾引上げ、農業融資の早期解除による農業界への資金流入を早めたほか、小農業者対策としては、農業融資の返済を現物を基礎として行うシステム、すなわち融資を受けた金額を最低価格によって農産物の量に換算し、返済の時点において同量の生産物を販売することによって融資の返済を行い得る制度を定めた農業法の施行細則を設定して実施に移すなど一連の振興対策が講じられた。この振興策は農業界に反映し、とうもろこし、フェイジョン及び米の栽培面積を大きく引上げることゝなった。すなわちとうもろこしの作付面積は、前年比15,2％増加して13.1百万ヘクタールに拡大され、その結果として生産量も又11,5％増しの23.8百万トンに達した。国内の地域別では、南東地方が前年比57％増し、中西部47％増、東北地方にいたっては実に192 ％という大巾な増加であったが、南部地方だけは強度の乾燥によって生産記録を更新することができず栽培面積の12,8％増加にかゝわらず生産量は、前年を(-)28,2 ％減少することゝなった。このように南部地方を除いて全国的に大型の収穫ではあったが、国内需要量の26百万トンには達せず91年も再度不足分の輸入が継続した。

雨期、乾期及び冬期に分けて行われるフェイジョンの収穫は、前年を7,7 %増加した5.7 百万ヘクタールの面積で行われ2.8 百万トンの収穫をあげた。これは前年を23%上廻るものであった。南部地方は、乾燥の被害によって前年を(-)7,3%下廻る649 千トンの生産に止まったにかゝわらず全国的には、良好な成績であったといえる。中でも東北地方では、前年乾燥のために放棄された地域の栽培が復活したのに加え天候が順調に推移したゝため、1,100 千トンの生産量に達し、国内最大の生産地帯となることを得た。この結果東北地方の全国生産に占めるシェアーは、90年の26,0%より、91年は39,4%へと飛躍している。又南東地方では、栽培面積の前年比(-)3,7%の減少にかゝわらず生産量は7,7 %増加して697 千トンを収穫し、中西部地方も又栽培面積の前年比減少にかゝわらず天候に恵まれたゝめ、前年を6,8 %上廻る203 千トンの生産をあげた。1991年におけるフェイジョンの国内供給に関しては、年頭に実施された価格統制により、統制の解除を待って出荷を控える傾向があったゝめ、市場に現物が不足する事態もみられたが6月に統制が解除されたあとは平常に戻った。

米の生産は410 万ヘクタールの面積において行われ、950 万トンの生産をあげた。前年と比較すると面積において4,5 %、生産量では27,8%の増加であった。たゞし前年（90年）の米作が過去12年間で最低の規模であったことから前年比大巾の増産をみたものゝ絶対量は少なく、国内供給に不足する分の輸入を必要とした。輸入品は、水田米のアグリンニャ種を主体に行われている。これは、政府の保有米が市場で受けの悪い陸稲を主体としているためであった。91年を通じて米の市況は極度に悪く、生産者は、作付のために借入れた農業融資の返済にも窮する状況にあったゝめ中央・南部地方における91年の作付けは新たな融資を待って行われ、予定を大きく遅延させることゝなり、又91年に植付けられた米は、植付け時点や生育期間中に天候が順調でなく、とくに長期乾燥による被害を蒙ったところや他の地域では、降雨過剰のため適期の植付けが出来なかったところもあった。全般的にみて優良品種や施肥の度合が減少していることが指定されているが、これも生産者の資本減少を示す１つの減少であった。このような状況であったが一部の州では、期待以上の反収増加により当初の予定を上廻る生産をあげたところもあった。とくにリオ・グランデ・ド・スール州を中心として南部地方を襲った長期乾燥にかゝわらず水源地の水量は水田栽培を行うに十分あり、前年を19,3%上廻る反収をあげている。

２年間連続して生産の減少が続いている大豆の生産量は、14.9百万トンで前年を(-)25,1 %下廻るものであった。収穫面積も又前年に(-)16,6 %劣る960 万ヘクタールに止まった。90／91農年に大豆栽培の大巾な減少を招いた最大の要因は、前年度における販売上の問題、とくに実勢を大巾に下廻った為替レート、及び生産費融資の不足のほか政府の農業政策の中で大豆生産の拡大にブレーキをかけるため、生産融資基準額や最低価格が低く設定されたのも生産意欲を落させた理由に加えられる。これら経済面でのネガチーフな要素に加え、主要生産地帯の南部地方では、開花期とさやの形成期に長期乾燥があり、平均反収を(-)40 %落したのも大きく影響した。この結果、南部３州における生産量は前年の11.5百万トンより91年は６百万トンに落ち、結果的に全国生産シェアーを58%より40%に縮少することゝなった。その他の地方は、南部地方と違い順調な天候が支配した。

90／91農年における小麦の生産量は290 万トンで前年比(-)5,8%の減産であった。収穫面積の減少率は更に大きく(-)23,7 %で200 万ヘクタールに止まったが、反収が天候不順の影響を受けて1.200Kg/ha以下に落ちた前年を23,7%上廻る1.464Kg/haを得たゝめ生産量の減少率を縮めることを得た。国内最大の生産州であるパラナ州では作付面積が前年に(-)38,1 %劣る1.1 百万ヘクタールに止まったにかゝわらず、天候に恵まれて反収が前年の1.164Kg/haより91年には、1.687Kg へと飛躍したゝめ生産量は、前年の140 万トンを大巾に上廻る180 万トンに達した。パラナ州に次ぐ生産地帯のリオ・グランデ・ド・スール州では生産者融資々金の不足、夏期作の減産、不安定な小麦市場、低い生産融資基準額と最低価格などの要素が重なり栽培面積を縮少した。すなわち、収穫面積の683 千ヘクタールは前年を(-)42 %減少するものであった。小麦の国内供給のため470 万トンの輸入が行われており、その中1.1 百万トンが政府による輸入、残りは民間による輸入であった。小麦の販売における政府専売制度の廃止から民間部門による輸入、販売、配給が行われることゝなった。

1991年におけるコーヒーの生産は、収穫面積において前年の2.905 千ヘクタールを2.767 千ヘクタールと縮少したものゝ栽培期間を通じて天候に恵まれたゝめ生産量は、前年をやゝ上廻る3.050 千トンであった。この量は、前年の生産量を上廻ったものゝコーヒー部門の状況は、前年と大きな変化はなくコストの上昇と低い販売価格の前に収益は

低下し、資本減少のために栽培管理は行き届かず、生産性と品質の低下～価格への影響といった悪循環が続いている。

かんきつ部門ではオレンジ生産量は、94.8億個で前年比8,3 %の増加、収穫面積も同率の増加であった。反収は変化なく、1ヘクタール当り96千個の生産が続いている。過去数回にわたり濃縮オレンジ・ジュースの国際相場高騰によるブームをひきおこしてきたオレンジ部門も米国のフロリダ州とブラジルのサン・パウロ州に2分される世界の原料生産地帯が次第に安定した生産態勢に入っている現状下において、降霜という自然現象による価格の高騰を期待する時代より、生産性の向上による競争力の強化を必要とする時代へと移行している情勢下にある。

砂糖キビ部門における1991年の生産量は、263.304 千トンで前年の262.605 千トンを僅かに上廻った。栽培面積が前年比(-)1.28 %の4.238 千haにかゝわらず生産量を増加したのは、融資の不足による栽培管理の不足といった問題があったものゝ生育期間を通じて良好な気候が支配し、反収を1,4 %向上したゝめであった。砂糖キビの栽培面積が減少したのは、生産コストと販売価格にみられたずれによるもので収益を圧迫された生産者の意欲喪失にもとづくものであった。これが前年の始めに生じたアルコール不足の大きな原因でもあったことから政府は、2月に実施した経済安定政策の中で砂糖キビに対し42%、アルコールに対し46,7%の価格調整を行ったほか、生産者債務の繰延べ新収穫及び販売に対する融資の実施などの措置を行っている。91年の生産量を地域別にみると南東地方における収穫量は、163.513 千トンで前年の162.444 千トンを6,5 %増加しており、中でも全国生産の半分以上を占めるサン・パウロ州は、136.200 千トンで前年をやゝ下廻る量であった。東北地方の生産も前年を(-)2,8%下廻る69.643百万トンに止まっている。

綿の生産は、草綿において前年を9,6 %上廻る194 万トンに達した。綿の生産が増加したのは、1990年を通じて国内市場が良好であったことが栽培意欲を刺激し、栽培面積が90年の138 万ヘクタールより91年に147 百万ヘクタールと増大したゝめであった。この他、天候条件がよく反収が前年の1.283Kg より1.322Kg へと向上したことも影響している。栽培面積の拡大は、農業前線地帯においてとくに顕著であったが、これは90年の農業政策において奥地方における穀類の生産を抑制するため、最低価格を地域別に格差をつけ穀類生産を不利な条件下に置いたことから従来、大豆によって占められていた面積の一部が綿に切替えられたゝめであった。この結果マット・グロッソ州、マット・グロッソ・ド・スール州及びゴヤス州における綿の栽培面積は、それぞれ57,6%、16,4%及び21,2%という増加振りを示している。又国内最大の生産地帯を持つパラナ州でも前年を19,6%増加する1.020 千トンの収穫を行っている。サン・パウロ州だけは、他州に比して種子価格が25%高価であったことや融資の不足、更に整地時期における降雨過剰等により面積、反収、生産量共減少した。

91年におけるココアの生産量は、前年を(-)9,8%下廻る320 千トンで終った。引き続く国際相場の低下に生産者の資本は減少し、栽培管理における農薬肥料使用の減少に加え、"VASSOURA DE BRUXA" と呼ばれる病害の発生等がその原因となっており、反収を前年比(-)10,4 %の480Kg に落した。国内生産の80%を占めるバイヤ州における天候不順も生産下落の大きな原因として加えられる。

牧畜部門では91年中に2,5 %の成長を残しているが、これは主に養鶏及び養豚部門における生産の増加によってもたらされたものであった。中でも養鶏部門は2年連続して見るべき成長を残しており、鶏肉の生産量は、前年を10,9 %上廻る1.703 千トンに達している。生産の拡大は輸出の増加を伴ないその量は、310 千トンで400 百万ドルの外貨を得た。

豚肉の生産も又前年の729 千トンを9,1 %増加する796.2 千トンであった。主要生産地帯において豚ペストの問題が解消し、輸出の可能性が増大したことが生産増大に大きく影響している。

牛肉の生産は、91年中で2.885 千トンを記録、これも前年を1,7 %上廻るものであった。価格も年間のインフレ率を上廻っており、良好な年とされている。一般購買力の減退により国内市場の需要は伸びなかったが、輸出が増加したこと集中飼育業者が価格のコントロールを行ったこと、輸入品を主体とする政府在庫が市場の要求に合わなかったことなどが良好な市状を維持した理由となっている。

表9　　過去5ヶ年間の農業生産状況（面積）　　1.000ha

作　物　別	1987	1988	1989	1990	1991
A）穀　類					
とうもろこし	13.503,4	13.169,0	12.931,8	11.390,7	13.109,8
米	5.979,8	5.957,1	5.250,1	3.944,9	4.127,3
小　麦	3.455,9	3.467,6	3.281,4	2.680,9	1.994,8
フェイジョン	5.201,8	5.781,2	5.181,0	4.680,1	5.442,8
ソルガム	230,7	195,4	164,6	133,4	171,8
大　麦	102,2	102,0	113,4	105,1	97,2
からす麦	141,1	127,8	203,8	188,9	263,4
ラ イ 麦	3,0	2,3	3,9	4,4	5,2
小 計	28.617,9	28.804,4	27.130,0	23.128,4	25.212,3
B）油脂作物					
大　豆	9.134,3	10.520,0	12.211,2	11.481,1	9.618,3
綿（草 綿）	1.277,3	1.824,0	1.506,8	1.383,6	1.484,1
〃（木 綿）	691,1	734,4	618,6	511,8	345,0
落 花 生	143,6	99,9	85,5	82,8	88,2
ヒ　マ	262,5	278,9	269,1	286,3	232,8
小 計	11.508,8	13.457,8	14.691,2	13.745,6	11.768,4
A+B	40.126,7	42.262,2	41.821,2	36.874,0	36.980,7
C）工業原料作物					
砂糖キビ	4.314,1	4.117,4	4.075,8	4.270,1	4.210,9
マンジョカ	1.936,0	1.752,0	1.880,9	1.933,6	1.943,1
煙 草 葉	297,7	280,5	289,1	272,4	285,7
サイザル	296,2	270,2	270,2	249,2	300,3
マ ル バ	44,5	47,2	32,2	21,2	12,7
ジュート	20,6	13,5	7,1	3,0	2,8
ラ ミ ー	7,1	8,2	8,0	7,1	5,6
小 計	6.916,2	6.489,0	6.563,3	6.756,6	6.761,1
D）嗜好作物					
コーヒー	2.875,6	2.975,2	3.026,5	2.905,8	2.767,4
コ コ ア	649,4	702,5	660,0	663,3	667,0
ピメンタ	20,8	23,9	29,2	33,2	36,8
グァラナ	11,7	12,4	11,2	9,7	6,1
小 計	3.557,5	3.714,0	3.726,9	3.614,0	3.477,3
E）果 実 類					
オレンジ	725,6	805,7	882,6	910,5	980,8
バ ナ ナ	447,4	466,0	483,2	487,4	490,3
パインアップル	45,7	46,1	38,0	32,1	34,3
ブ ド ウ	58,8	58,3	59,2	57,4	57,3
リ ン ゴ	21,0	22,4	20,9	22,3	25,6
コ コ 椰子	183,6	198,1	198,1	206,0	227,6
カジューナット	-	461,7	533,9	582,8	616,7

小 計	1.482,1	2.058,3	2.215,9	2.298,5	2.432,6
F) 野 菜 類					
じゃがいも	176,9	173,7	156,8	157,8	161,0
ト マ ト	57,6	62,8	64,5	60,5	60,6
玉 ね ぎ	75,0	69,4	73,8	74,4	75,7
にんにく	17,9	14,3	14,0	17,1	18,8
小 計	327,4	320,2	309,1	309,8	316,1
合 計	52.409,9	54.843,7	54.636,4	49.821,9	49.967,8

出所：IBGE

表10　　過去5ヶ年間の農業生産状況（生産量）　　1.000 t

作 物 別	1987	1988	1989	1990	1991
A) 穀 類					
とうもろこし	26.802,8	24.748,0	26.572,6	21.341,2	23.939,0
米	40.419,0	11.809,5	11.044,5	7.418,5	9.495,9
小 麦	6.034,6	5.738,0	5.552,8	3.093,5	2.921,3
フェイジョン	2.007,2	2.808,6	2.310,5	2.233,1	2.749,2
ソルガム	438,4	302,0	241,1	227,9	254,5
大 麦	196,8	125,5	248,2	157,4	110,5
からす麦	176,0	139,4	240,3	174,2	228,4
ラ イ 麦	4,1	2,3	4,0	4,3	6,3
小 計	46.078,9	45.673,3	46.214,0	34.650,3	39.705,1
B) 油脂作物					
大 豆	16.968,8	18.016,2	24.071,4	19.887,6	14.938,1
綿 (草 綿)	1.613,1	2.437,8	1.813,4	1.774,5	2.037,8
〃 (木 綿)	60,3	99,3	47,1	38,2	38,5
落 花 生	196,1	167,0	151,1	137,2	138,9
ヒ マ	103,6	147,9	128,6	147,7	129,2
小 計	18.941,9	20.868,2	26.211,6	21.985,3	17.582,5
A+B	65.020,8	66.541,6	72.425,6	56,635,6	57.287,6
C) 工業原料作物					
砂糖キビ	268.741,1	258.412,9	252.642,6	262.604,6	260.838,8
マンジョカ	23.464,5	21.673,8	23.668,5	24.284,7	24.530,8
煙 草 葉	397,5	431,0	449,0	444,4	413,3
サイザル	191,3	185,4	220,9	185,1	233,7
マ ル バ	46,1	52,9	31,7	18,5	11,7
ジュート	19,5	16,1	8,3	3,6	3,3
ラ ミ ー	15,5	19,1	9,2	10,2	8,0
小 計	292.875,5	280.791,2	277.030,2	287.551,1	286.039,6
D) 嗜好作物					
コーヒー	4.405,4	2.737,7	3.059,7	2.926,2	3.050,6
コ コ ア	329,3	392,4	392,6	355,2	320,5

ピメンタ	45,9	59,4	65,5	74,7	83,7
グァラナ	1,6	1,9	1,4	1,5	2,0
小 計	4.782,2	3.191,4	3.519,2	3.357,6	3.456,8
E) 果 実 類					
オレンジ ※	73.568,8	75.565,2	89.016,2	87.531,5	94.512,3
バ ナ ナ ※※	513,1	511,8	550,5	550,2	552,6
パインアップル※	957,4	1.012,8	838,8	724,0	778,8
ブ ド ウ	566,0	771,7	716,6	786,2	618,0
リ ン ゴ ※	1.668,2	2.196,6	2.386,9	2.717,6	2.633,0
コ コ 椰子 ※	603,2	699,9	681,0	709,3	849,2
カジューナット	-	133,4	144,0	107,7	175,6
小 計	-	-	-	-	-
F) 野 菜 類					
じゃがいも	2.330,8	2.315,0	2.132,3	2.219,1	2.264,9
ト マ ト	2.049,3	2.406,9	2.177,5	2.255,3	2.339,5
玉 ね ぎ	854,0	780,3	797,3	867,1	878,9
にんにく	76,2	57,5	62,0	71,1	85,5
小 計	5.310,5	5.559,7	5.169,1	5.412,6	5.568,8

出所：IBGE　※ 1.000個　※※ 1.000房

表11　過去5ヶ年間の農業生産状況（単収）　Kg／ha

作 物 別	1987	1988	1989	1990	1991
A) 穀 類					
とうもろこし	1.985	1.879	2.055	1.874	1.826
米	1.742	1.982	2.104	1.881	2.301
小 麦	1.746	1.655	1.692	1.154	1.464
フェイジョン	385	486	446	477	505
ソルガム	1.900	1.545	1.465	1.708	1.481
大 麦	1.925	1.231	2.188	1.498	1.137
からす麦	1.247	1.091	1.158	922	867
ラ イ 麦	1.348	1.004	1.043	1.032	1.203
B) 油脂原料作物					
大 豆	1.858	1.713	1.971	1.732	1.553
綿 (草 綿)	1.263	1.336	1.203	1.283	1.373
〃 (木 綿)	87	135	76	75	112
落 花 生	1.366	1.672	1.767	1.658	1.575
ヒ マ	395	530	478	516	555
C) 工業原料作物					
砂糖キビ	62.293	62.762	61.985	61.487	61.943
マンジョカ	12.120	12.371	12.584	12.559	12.624
煙 草 葉	1.350	1.537	1.531	1.632	1.446
サイザル	646	686	818	743	778

マルバ	1.037	1.121	984	873	917
ジュート	947	1.186	1.176	1.210	1.159
ラミー	2.183	2.335	1.145	1.426	1.439
D) 嗜好作物					
コーヒー	1.532	920	1.011	1.007	1.402
ココア	507	559	595	536	480
ピメンタ	2.207	2.490	2.241	2.249	2.277
グァラナ	135	156	122	155	333
E) 果実類					
オレンジ ※	101.396	93.789	100.853	96.136	96.366
バナナ ※※	1.147	1.098	1.139	1.129	1.127
パインアップル※	20.945	21.980	22.072	22.561	22.684
ブドウ	9.625	13.230	12.110	13.699	10.785
リンゴ ※	79.274	98.268	114.365	121.663	102.975
ココ椰子 ※	3.284	3.533	3.439	3.443	3.731
カジューナット	-	289	270	185	285
F) 野菜類					
じゃがいも	13.179	13.325	13.602	14.066	14.068
トマト	35.574	38.328	33.780	37.208	38.608
玉ねぎ	11.380	11.240	10.802	11.653	11.618
にんにく	4.251	4.031	4.444	4.145	4.554

出所：IBGE　※個数　※※房

1．2　対外部門

1．2．1　概況

1991年3月に発足したコーロル政府の対外政策は、貿易と外国資本に対する経済開放を中心としたものであったが、その政策は、91年度も継続され、とくにメルコスール（アルゼンチン、ブラジル、ウルグァイ及びパラグァイ国による南部共同市場）の設定により、同共同市場が本格的に開設される1995年1月を目指し、関税の段階的引下げと非関税障壁の撤廃を図る政策が実施された。

91年の対外政策の中で特記された他の重要な事項は、国内の経済改革に平行した対外債務の交渉があげられる。同年4月には、外国債権銀行との間に90年12月31日までに累積した債務に関する協定を行い、下半期に債権銀行に対して延滞分の25％に相当する20億ドルの支払いが行われている。残りの分は、中長期の債務交渉の結論が出される際に発行される外国債によって補完されることいなった。又、11月末には、IMFとの間にスタンド・バイ協定が行われ20ヶ月の期間で20億ドルの資金調達が行われている。

為替政策面では9月までクルゼイロの過大評価が継続し、輸出に少なからぬ影響を与えてきたが、同月中銀は、クルゼイロの対米ドル平価14％の引下げを行い、年度後半のレートを実勢に則するレベルに戻した。この為替政策は、外国市場と比較して高い国内金利と合せ外国資金吸収の環境を作り、年末にかけて投資及び中長期の融資形式による資本の流入が増加したが、これら外国資金のより多くの流入が前年に記録された対外収支の赤字を47％減少させた最大の理由となった。このほか利息、利益及び配当等の外国送金額すなわちサービス勘定が前年を上廻ったことも対外収支の改善に影響した要因として加えられる。なお、保有外貨の量については、90年12月18日付上院決議第82号によって、4ヶ月分の輸入を保証する資金を最低保有限度とする制度が実施されている。

ＰＩＢ（国内総生産高）との関連でみた外国部門に関する経済指標は、90年に比して可成りの余裕を持つものであった。

すなわち外国に移動した資金量は、1989年がＰＩＢの3,6 %、90年が2,0 %であったのに対し91年は1,9 %に止まっている。

１．２．２　外国貿易及び為替政策

外国との貿易拡大を活性化するために実施された90年度の政策は91年も継続され、対外競争強化のための効率化とその結果としての工業部門の技術の近代化、輸出に対する融資メカニズムの復活などの政策が採用された。この他、関税障壁による保護レベルの段階引下げ、インセンチーブ及び補助の廃止、特定商品の輸入禁止政策の廃止等があげられる。

この政策のもとに1991年より1994年にいたる間の新しい輸入関税が設定され、91年２月15日より実施に入った。この関税制度の改革は、輸入の段階的自由化を目指したもので、各国にみられるように輸入、関税の巾を０％～40%、平均20%とすることが目的とされている。なお先端技術を持つ新製品に対しては暫定的に特別の関税が設定された。これら関税の設定にあたっては各部門別の分析が行われ、ブラジルが有利な競争力を持つ製品、国産類似品のない製品、国際間の輸送コストが極めて高価となる製品等に対しては、関税率を０とする方法が採用されている。なお、消費財については、最初の２年間は関税の引下げ率を緩め、中間財及び資本財については、この期間中にもっとも高率の引下げが実施されている。

従来より規制されてきた輸入に対する最低期間及び381 日及び720 日の期間を要する輸入に対する中央銀行の事前許可制度は、廃止された。

マナウス・フリーゾーン及びタバチンガ自由貿易地区における91年度の輸入枠は、それぞれ1.270 百万ドル及び15百万ドルと設定された。

1991年２月政府は、製造期間が長期にわたる製品の輸出に対して資金援助を提供することを目的として工業競争力促進プログラムを設定し、輸出金融プログラム（ＦＲＯＥＸ）の設定を許可する法律案を国会に提出した。同 PROEX は、91年６月に法律第8.177 条として設定され、国内の財及びサービスの輸出に対する資金の融資及びブラジル製品、主に輸送機器を含む資本財の外国市場における競争力維持を目的とした利息の均衡メカニズムを通じた資金援助を目的としたものである。

91年８月には政府の輸出金融の調和を図り、これを改良する機関としての輸出金融企業諮問委員会（ＣＯＦＥＸ）及びＰＲＯＥＸに向けられる国家資金の適用に関する事項を取扱う輸出金融委員会（ＣＦＥ）が設置されている。又９月以降は、ＢＮＤＥＳ（社会経済開発銀行）が機械器具輸出金融プログラム（ＦＩＮＡＭＥＸ）の施行細則を設定し、新しい融資ラインを開設している。このようにしてブラジル銀行によって行われ90年10月に廃止された旧 FINEX に代る輸出金融制度が確立されることゝなった。

1991年11月21日には、デクレット第350 号をもってアルゼンチン、ブラジル、ウルグァイ及びパラグァイを構成国とするメルコスール設立条約が国内法として公布された。同共同市場はメンバー国間における関税及び非関税障壁の撤廃を通じた財及びサービスの自由交易及び、協定国外に対する共通関税の設定を主要目的とし、市場統合のプロセス強化のため各国のマクロ経済及び各部門の調整を行うことを目的としたものである。

他方ボリビアとの国境地帯の開発と、ラテン・アメリカ統合政策の一環としてロンドニア州にグァジャラ・ミリン自由貿易地区が設定された。

1991年度における為替政策は、前年に引き続き、自由レートと観光レートの二つのレートが継続された。レートの上では、1991年９月までクルゼイロの過大評価が続き、輸入の抑制とインフレの加速を防ぐ上で効果があったが、輸出にブレーキをかける問題が生じていたゝめ同月14%の対米ドル平価の切下げが行われることゝなり、以後年末にかけて平常化し輸出を回復させている。

各月末における自由為替レートは次の通りであった。

表１２　　１９９１年度の為替レート（各月末の自由レート）

日　付	買　い	売　り	過去12ヶ月間変動率（%）
1991年１月31日	219,17	220,14	1.142,2
２月28日	222,84	223,43	631,0
３月31日	238,14	238,93	467,9
４月30日	260,08	260,73	411,5
５月31日	284,34	284,70	417,2
６月30日	311,75	312,22	413,3
７月31日	346,21	346,57	403,5
８月31日	392,75	393,76	450,2
９月30日	465,48	464,93	455,8
10月31日	641,54	645,02	505,9
11月30日	840,35	840,40	484,3
12月31日	1.068,70	1.068,80	533,9
年間平均	408,66	409,25	-

出所：BANCO CENTRAL

１．２．３　対外収支

表１３　　ブラジルの対外収支　　100万ドル

項　目	１９９０	１９９１
１　経常収支		
貿易収支（FOB）		
輸　出	31.414	31.621
輸　入	20.661	21.012
収支残	10.753	10.604
サービス収支		
利　息	(-) 9.748	(-) 8.621
その他	(-) 5.348	(-) 4.556
収支残	(-)15.096	(-)13.177
移転収支	834	1.556
経常収支残	(-) 3.509	(-) 1.017
２　資本収支		
外国よりの直接投資（残高）	0	170
融　資		
外国よりの融資	3.474	2.125
ブラジルより外国への融資	(-) 50	(-) 99
残　高	3.424	2.026
元本償還		
支払額	(-) 8.053	(-) 7.830
再融資	(-) 612	-
残　高	(-) 8.665	(-) 7.830
通貨貸付		

短　　期	(-) 1.208	3.033
長　　期	911	3.997
残　　高	(-) 297	964
その他の資本勘定	550	157
資本収支残	(-) 4.988	(-) 4.513
3　誤謬脱落	(-) 382	851
対外収支残	(-) 8.825	(-) 4.679

出所：BANCO CENTRAL DO BRASIL

1991年はブラジルの米国貿易の中、輸出面にとって好ましい環境ではなかったが、国際金利の低下、外国資本流入の再開、主要工業先進国通貨に対するドルの価値上昇等が原因となってブラジルの対外収支事情は、前年と比較して大巾な好転をみた。

すなわち上表に示されるように91年度における支払収支残高(-)4.679百万ドルは、前年に記録された(-)8.825百万ドルを半減するものであり、この中経常収支の赤字は(-)3.509百万ドルより(-)1.017百万ドル、資本収支も(-)4.988百万ドルより(-)4.513百万ドルへと減少した。

経済収支の中、91年の貿易収支残高は、前年比(-)1.4％の減少であったが、輸出額と輸入額を合せた貿易総額でみる場合は1,1 ％の増加となっている。

1983年以降、経常収支の変動は常に貿易収支の結果を反映するものであったが、1991年度は貿易収支が前年と殆んど変化がなかったのに対し、サービス収支が前年を(-)12,7 ％下廻ったこと、移転収支の残高が増加したことが影響して経常収支残高の赤字を前年比(-)71,0 ％減少することを得た。サービス収支における支出額の減少は、国際金利の低下及び外国への利益が配当金の送金が大巾に減少したことに影響されたものである。又為替市場における浮動レートの採用は、国際観光収入、各種サービス収入、及び移転収支の増加を招く原因ともなった。

公共及び民間部門が行った外国との融資契約及びリスク投資によって大量の資金が流入したにかゝわらず、資本収支勘定に計上された(-)4.513百万ドルの赤字は、短期融資勘定において返済額が受入額を3.033 百万ドルオーバーしたためであった。

1991年末における中央銀行の外貨保有高は、8.552 百万ドルで前年末の残高を199 百万ドル減少するものであった。91年中10月には最低の7.009 百万ドルに落ちていたが、第4四半期における資金の導入によって前年並みのレベルに戻したものである。結局前年のレベルには、達しなかったものゝ、公共部門の債務にかゝわる利息の30％及び債権銀行に対して遅延していた利息にかゝわる支払を行うことを得た。

1．2．4　貿易収支

1991年は、国際間貿易にみられた一連の制約事項があったゝめ、輸入に必要とする外貨を確保し、更にその他の対外義務を履行するためには、輸出に対する一段の努力を必要とした。

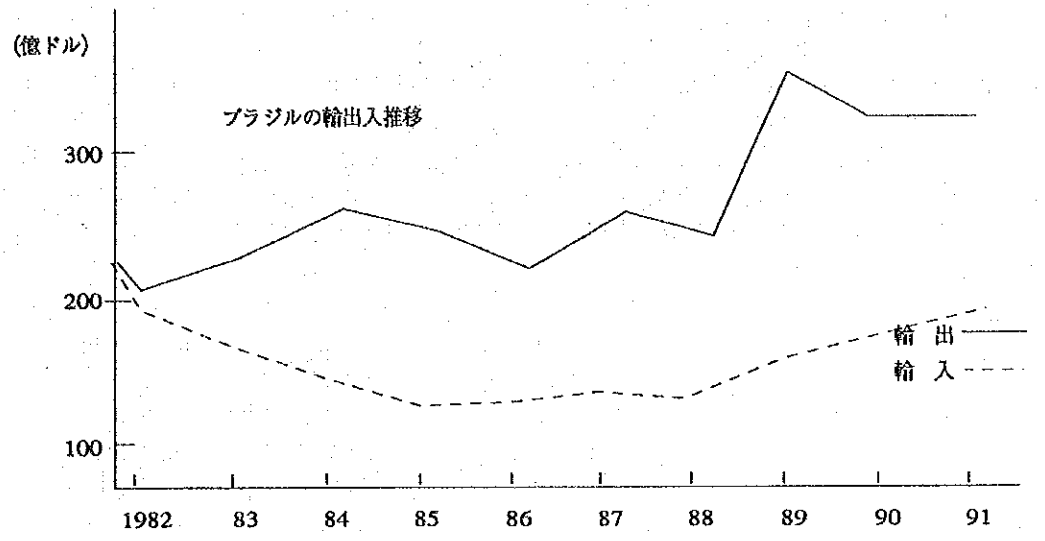
結果的に年間の貿易成果は、輸出面においても又、輸入面においても前年にほゞ類似したレベルに達し、前年の貿易収支残10.753百万ドルに対し、10.604百万ドルの黒字を残した。

表14　　ブラジル貿易収支　　100万ドル

年　　度	輸　出　FOB	輸　入　FOB	収　支　残　高
1982	20.175	19.397	778
83	21.899	15.429	6.470
84	27.005	13.916	13.089
85	25.639	13.153	12.486
86	22.393	14.044	8.349

87	26.224	15.052	11.172
88	23.789	14.605	19.184
89	34.383	18.263	16.120
90	31.414	20.661	10.753
91	31.621	21.017	10.604

出所：BANCO CENTRAL DO BRASIL



ブラジル製品の海外輸出にあたって直面した問題点は、製造工業製品輸出に対する融資の不足、高い港湾コスト、高率の課税など構造上の問題のほか農業生産の減退から余剰輸出農産物の量が減少したことも影響した。この他、工業先進国における景気の沈滞、国際市場における商品価格の低下などがネガチーフな要素として加えられた。

輸出金融に関しては、ＰＲＯＥＸ（輸出融資プログラム）が年度中途に制度化されたがその影響は、91年中には現われていない。

国際市場における全般的な価格の低下と合せ、この２年間は農業生産の減少により穀類の輸出余力を落しており、他の生産国が輸出に対して補助を継続している中でブラジルでは、外国への販売に対する課税が続けられ、国際競争力を失ってきた。又年の大半にわたって続けられた為替政策もブラジル製品の海外販売に対して良好な条件になく、これが改訂され正常化したのはようやく９月の末であった。

輸入面においては、石油とその副産物に対する支出が大巾に減少したにかゝわらず前年を1,7 %上廻る輸入額が記録されている。しかし輸入禁止リストの廃止や段階的関税引下げの実施など外国貿易の自由化が推進された割には、輸入の伸びは小さく不安定な国内情勢と全般的なリセッション下における輸入能力の低下が明らかな形として現わされている。輸入の自由化がとくに反映したのは、原材料の輸入面でこの分野のみは大巾な輸入増加が記録されている。

又、1991年における輸入の増加は輸入重量の増加にもとづくものであり、価格は全般的に下降したことを考慮に入れておかねばならない。この他、輸入を増加させた理由として農業生産の低下による国内供給補完の問題があった。国内でとくに不足した農産物（とうもろこしなど）に対しては、無税輸入が許可され大量の輸入が行われている。

中央銀行が行った推定によると外国貿易における価格と量の指数は、輸出において価格指数が(-)4％低下したのに対し重量指数は、3,5 %増、輸入面でも価格の(-)7,6％低下に対し重量指数は、9,5 %の増加であった。中でもブラジルの輸入にもっとも大きな影響を与える石油勘定は、価格において(-)13,56%、重量も又(-)10 %の下降であった。

イ） 輸 出

1991年の輸出は、31.621百万ドルで前年をわずか0,7 %増加したに止まった。この中基礎製品の輸出額は、 8.738百万ドルで前年とほとんど変化はなく、工業製品において前年を1,5 %上廻る22.449百万ドルが記録されている。1991年における主要品目の輸出状況は次の通りであった。

（コーヒー）

91年におけるコーヒーの輸出は、1.1 百万トンで、90年を24,8%増加、輸出金額は1.479 百万ドルで前年比18,0%の増加であった。国際コーヒー機構（ＯＩＣ）加盟国による輸出量は、78,7百万俵で前年を1,2 %増加しており、この中ブラジルの割合は、24,8%であった。この間ブラジル政府は、3月21日にコーヒー輸出を一時的に中止、4月8日に再開したが、ブラジルが輸出を中断した期間中競争相手国は、ブラジルの不在を利用して輸出収入をあげている。国際コーヒー機構（ＯＩＣ）が発表した報告書によると、この3ヶ年間における国際相場の下落によって世界の消費国における在庫量が急増しており、これが又価格の上昇を押える要素として作用し、低価格は更に継続した。

世界の消費国の中では、日本の消費増加が目立っており、近い将来米国に次ぐ世界第2の消費国となる可能性を有している。ブラジルは、1989年まで日本に対する最大の供給国であったが、今後も又対日輸出を増大することが出来る条件を持っている。

表１５　　コーヒー：世界とブラジルの生産、消費及び輸出量　　1.000俵（60Kg）

内　　訳	１９８９	１９９０	１９９１
ブラジルの生産量	26.000	31.000	28.500
〃　国内消費量	10.000	10.000	11.000
〃　輸　出　量	15.500	20.000	19.500
世　界の生　産　量	97.366	101.425	100.516
〃　輸　出　量	74.531	77.719	78.672
世界に対するブラジルのシェアー			
生　産　量（%）	26,7	30,6	28,4
輸　出　量	20,8	25,7	24,8
O／C指示価格　US＄／俵	130	109	96

出所：DECEX GEORGE GORDON PATON

（砂　糖）

1991年は、砂糖部門にとって良好な年ではなく、供給過剰の中で低い国際相場が継続した。91年における砂糖の輸出収入は1.484 百万ドル、平均価格はトン当り＄267.65であったが、この平均価格は、前年を(-)21,4 %低下したものであり、輸出重量の減少と共に輸出額は、前年を(-)22,4 %下廻るものとなった。

90／91農年における世界の砂糖生産量は、115.3 百万トン、消費量は110.1 百万トンで約5.2 百万トンの余剰を生じており、世界の在庫を34.5百万トンに増大させている。この量は、世界消費量に対し31,3%に及ぶものである。91年の世界生産量が前年比12%の増大をみたのに対し、世界の需要はわずか1,3 %に止まったことが価格にネガチーフに影響し、ニューヨーク市場の相場は1990年のトン当り＄274,55より91年の＄267,65へと下落している。

表１６　　砂糖：世界とブラジルの生産、消費及び輸出量　　100万トン

年　　度	生　産　量		消　費　量		輸　出　量	
	ブラジル	世　界	ブラジル	世　界	ブラジル	世　界
１９８１	8,3	88,7	5,5	90,0	2,7	28,2
８２	8,9	100,9	6,1	91,9	2,7	32,1

83	9,2	100,6	6,0	93,6	2,5	29,9
84	10,2	98,0	6,0	96,0	3,1	30,0
85	8,7	100,4	6,0	98,2	2,5	30,0
86	7,4	98,7	6,4	100,5	2,4	29,2
87	9,3	104,1	7,1	106,0	2,2	29,2
88	8,9	104,7	6,6	107,0	1,8	28,5
99	7,4	104,4	7,8	106,3	1,1	29,9
90	7,9	109,2	7,3	108,7	1,5	30,1
91	8,9	115,3	7,0	110,1	1,5	31,0

出所：DECEX、IAA、OIA

（大　豆）

91年度の大豆市場に関しては、国際価格は前年と大きな変化はなかったが、89年よりは低い相場が継続した。91年中に船積みされた量は大豆（豆）、大豆粕及び大豆油がそれぞれ2.0 百万トン（前年は4.1 百万トン）、9.9 百万トン（8.7 百万トン）及び513 千トン（795 千トン）で大豆（豆）と大豆油において前年を下廻り、大豆粕のみが前年に勝る輸出量となっている。これら大豆及び副産物の輸出にかゝわる輸出収入は、前年の29億ドルより91年は、20億ドルへと落ちた。全体的な輸出量の減少と輸出平均価格が大豆（豆）において90年のUS$ 223,19/tより＄221,77へ、大豆粕がUS$ 184,17/tより＄182,89へ、大豆油も又US$ 420,20/tより＄416,05/tへとそれぞれ前年を下廻ったのが輸出総額の減少を招いた理由であった。

大豆の世界生産量は、前年107.2 百万トンより91年は103.2 百万トンに落ちたものゝ、需要も又減少したゝめ、大豆（豆）及び大豆粕の世界在庫を大巾に落すにいたらず、91年末において大豆（豆）19.3百万トン、大豆粕が 3.7百万トン在庫されたものと推定されている。大豆油の世界在庫は、前年と同レベルの18百万トンであった。米国のクレジット供与によってロシアの需要が増加したにかゝわらず、価格はむしろ若干の下降をみるに終った。

表17　　大豆：世界とブラジルの生産、消費及び輸出量　　1.000 t

内　　訳	1989	1990	1991
世　界の生産量　(A)	95.100	107.200	103.200
ブラジルの生産量　(B)	23.200	20.340	15.750
B／A　(%)	24,4	19,0	15,3
ブラジルの推定消費量			
大　豆	18.483	17.046	14.601
大豆粕	3.346	3.525	3.326
大豆油	2.335	2.148	2.222
ブラジルの輸出	15.380	13.615	12.404
大　豆	4.618	4.077	2.020
大豆粕	9.871	8.744	9.871
大豆油	891	795	513
粗油	798	772	507
精製油	93	23	6

出所：OECEX、CONAB、USDA

（ココア）

ココアの世界市場は、1984／85年以来継続している供給過剰の状況が91年も繰返えされた。この期間中に累積された世界在庫が91年も又世界の取引相場を押える最大の理由となり、ココア（豆）の輸出額もその影響を受けて前年比(-)15,9 %減少しUS$ 306,4 百万ドルに止まっている。

ココア・バターの場合は輸出平均価格が前年のUS$ 2.875,44/tより91年には、US$ 2.910,34へと上昇したにかゝわらず輸出重量の減少からその輸出額も又前年を(-)6,5 %下廻る127 百万ドルに止まった。ココア・バターは、ココア部門全体の輸出に41,4 %の比重を占める重要な製品である。このように低迷する世界のココア市場を正常に戻すため生産国と消費国によって構成されているＯＩＣＣ（世界ココア機構）のメンバー国は、現行の協定に代る新たな国際協定のための会議を開催し、国際価格を一定の線に保つべく世界の供給をコントロールすることについて協議したが、具体案に達せぬまゝの91年を終っている。

表１８　　ココア：世界とブラジルの生産輸出　　1.000 t

内　　訳	１９８８	１９８９	１９９０	１９９１
世界生産量（A）	2.446	2.388	2.523	2.238
ブラジルの生産量（B）	333	352	377	308
B／A　(%)	13,6	14,7	19,9	13,8
ブラジルの輸出量				
ココア　(豆)	134	107	118	84
ココア・バター	47	34	47	44
ココア・リコール	46	43	33	25
練りココア	45	34	45	41
そ の 他	41	45	31	41

出所： DECEX、CEPLAC GIL & DUFFUS

（その他の主要輸出品目）

ブラジルの重要な輸出農産物として最近では、砂糖、ココアなどの伝統的商品をしのぐ輸出収入をあげている煙草葉の1991年における輸出は、重量において前年(156千トン）を5,1 %下廻る148 千トンに止まったもゝ、輸出単価がUS$ 4.419,00/tと良好なレベルにあったゝめ輸出額は、前年を18,7%上廻る654百万ドルを記録している。

鉄鉱石の輸出は、前年を8,0 %増加し26億ドルに達しており、単一商品では国内最大の輸出項目である。この他マンガン他、金属鉱石も前年を上廻る輸出額であった。

ブロイラーの輸出は、重量において前年比5,7 %の増加があったのに加え、平均単価も又前年比13,0%上昇したゝめ輸出額は、387 百万ドルに達した。牛肉の輸出も又179 百万ドルを記録し、前年100 百万ドルに落ちていた輸出規模を回復した。しかし1988年に到達した374 百万ドルのレベルと比較するとはるかに低いものであった。

綿の輸出額は、149 百万ドルで前年を16,4%上廻るものであった。

1991年９月には、農業融資マニュアルに規定されている融資限度に制約されることなく生産費及び販売融資に向けられる外国資金の調達が許可された。

工業製品に対しては、ブラジルの輸出増加がより付加価格の高い製造工業製品の輸出に負うところが大きく、輸出全体に占めるシェアーを次第に高めているのが観察された。工業製品の輸出額は前年を1,5 %上廻る22.449百万ドルであったが、この中4.693 百万ドルが半加工品、17.756百万ドルが完成品であった。前年と比較すると前者において(-)8,1 %の減少、後者が4,4 %の増加となっている。

半加工品の中ではアルミ粗金がもっとも大きく、その輸出額は前年を12,7%増加する986 百万ドル重量も又前年を

38,9%上廻るものであった。これに次ぐ鉄鋼半加工品の輸出額も前年を4,7 %増加した1.624 百万ドルに達したが、これは新期市場の開拓、とくに韓国を中心とするアジア諸国向輸出の増加によるところが大きかった。木材パルプも半加工品の中では、重要な輸出品目であり580 百万ドルの実績を残しているが、国際価格の大巾な低下から重量において32,7%と増加しながら輸出金額は、わずか2,0 %の増加に止まっている。皮革の輸出は前年を6,2 %上廻る 308 百万ドルであったが、錫鉱石は重量において(-)35,7 %, 金額で(-)42,4 %という大巾な減少で99百万ドルの輸出収入に止まった。輸出量が割当制とされたゝめである。

完成品の輸出は、前年に引き続き輸出の中では、もっとも大きく91年も56,2%を占めており、前年の54,2%も上廻っている。91年に設置されたＰＲＯＥＸ（輸出金融プログラム）にかゝわらず資本財の輸出は、91年中に増加はみられておらず、ＰＲＯＥＸの効果は、92年より現われるものであろうといわれている。完成品の中では、機械器具の輸出額2.590 百万ドルがもっとも大きく、中でも内燃機関の811 百万ドルがもっとも大きな比重を占めた。輸送機器の輸出額は2.136 百万ドルで前年とほゞ同等のレベルであった。輸送機器の中では、自動車部品（ 566百万ドル）及び貨物輸送自動車（ 411百万ドル）の輸出が大きな割合いを占めている。乗用車の輸出額は203 百万ドルで前年を39,6 %上廻る良好な成績であった。しかし全体的に車輌及び部品の販売面では、競合相手である韓国、日本及びメキシコに劣る状況にある。鉄鋼製品の輸出収入は、914 百万ドルで前年を16,4%上廻るものであった。

又農産加工品としてトップに立つ濃縮オレンジ・ジュースの輸出額は、900 百万ドルで前年の輸出額に(-)38,7 %劣るものであった。輸出減少の原因は原料となるオレンジの世界生産の増加、とりわけ米国のフロリダ州の増産にもとづくもので米国の自給率が高まり、ブラジルへの依存度を減少したことにある。このような情勢下において濃縮、非濃縮及びタンジェリーナ・ジュースの輸出税が軽減された。伝統的な輸出加工品である靴の輸出額は、1.245 百万ドルで前年比5,2 %の増加を示した。但し、最近の傾向としてブラジルの靴は、他の競争国が提供するより品質が低く、したがってより安価な製品との競合に押されている状況が観察される。以上のほか重要な輸出品として、電気機器（1.007 百万ドル）有機化学製品（732 百万ドル）紙及び製品（658 百万ドル）プラマチック（531 百万ドル）等があげられる。

表１９　　品目別輸出実績　1990年　1991年対比

品　　目	重　量	1.000 t	金　額	100万ドル	1991年の金額
	１９９０	１９９１	１９９０	１９９１	比率（%）
Ⅰ　第１次産品					
鉄　鉱　石	113.497	113.301	2.407	2.600	8,1
コーヒー	853	1.095	1.106	1.382	4,4
大　豆　粕	8.744	7.489	1.610	1.369	4,3
煙　草　葉	156	148	551	654	2,1
大　豆（豆）	4.077	2.020	910	448	1,4
ブロイラー	297	314	324	387	1,2
砂糖（粗糖）	825	804	289	209	0,6
牛　　肉	49	86	100	179	0,6
金属鉱石（その他）	5.519	5.776	163	174	0,5
綿	109	124	128	149	0,5
カジューナット	27	24	101	111	0,3
かんきつ粕	1.131	1.340	102	91	0,3
ココア（豆）	118	84	128	88	0,3
マンガン鉱石	924	854	83	86	0,3
伊勢エビ	3	10	61	71	0,2

ピメンタ・ド・レイノ	29	48	42	50	0,2
貴 石 類	4	4	52	49	0,2
石 綿	53	68	19	24	0,1
バ ナ ナ	53	91	9	15	0,1
エ ビ	8	7	49	47	0,1
豚 肉	12	15	22	28	0,1
ブラジル・ナット	24	14	32	18	0,1
カオリン	292	342	30	37	0,1
マ テ 茶	15	16	22	26	0,1
花 崗 岩	338	308	41	37	0,1
オレンジ	77	109	18	22	0,1
冷凍魚類	20	25	21	28	0,1
植物油脂	445	333	44	38	0,1
そ の 他	604	631	282	317	9,0
小 計	138.303	135.480	8.746	8.738	27,5
II 工 業 製 品					
A) 半加工品					
アルミ粗金	545	757	875	986	3,1
鉄鋼半製品	3.404	4.323	753	952	3,0
木材パルプ	1.026	1.361	592	580	1,8
合 金	430	429	381	369	1,2
銑 鉄	3.489	2.497	417	300	1,0
牛 皮	75	71	261	282	0,9
大豆粗油	772	505	321	208	0,7
ココア・バター	48	44	136	127	0,4
角 材	283	265	116	118	0,4
錫 鉱 石	28	18	172	99	0,3
砂糖（結晶糖）	101	175	37	47	0,1
カルナウーバ・ワックス	11	13	22	31	0,1
タンニン	26	27	20	20	0,1
ココア・リコール	33	25	50	38	0,1
牛皮外の皮革	3	2	29	26	0,1
そ の 他	2.098	1.166	926	507	0,6
小 計	12.372	11.678	5.108	4.693	14,9
B) 完 成 品					
機械器具	503	483	2.480	2.950	8,2
（内燃機関）	(188)	(154)	(890)	(811)	(2,6)
（コンプレッサー他）	(63)	(68)	(207)	(238)	(0,8)
（土木機械）	(36)	(32)	(183)	(170)	(0,5)
（情報機器）	(1)	(1)	(93)	(165)	(0,5)
（工作機械）	(9)	(12)	(67)	(103)	(0,3)
（ミシン及び部品）	(10)	(20)	(90)	(95)	(0,3)
（製紙用機械）	(7)	(8)	(64)	(74)	(0,2)

(事務用器具)	(3)	(3)	(24)	(27)	(0,1)
(そ の 他)	(186)	(185)	(864)	(907)	(2,9)
輸送機器	395	396)	2.146	2.136	6,8
(自動車部品)	(166)	(195)	(532)	(566)	(1,8)
(トラック)	(84)	(71)	(452)	(411)	(1,3)
(航 空 機)	(0)	(0)	(323)	(213)	(0,7)
(乗 用 車)	(60)	(32)	(336)	(203)	(0,6)
(船 舶)	(0)	(0)	(60)	(175)	(0,6)
(CKD車輌)	(16)	(25)	(80)	(125)	(0,4)
(鉄道機器)	(31)	(19)	(60)	(38)	(0,1)
(そ の 他)	(24)	(39)	(243)	(343)	(1,1)
鉄鋼製品	3.920	4.280	1.644	1.914	6,1
靴及び部品	71	65	1.184	1.245	3,9
電気機器	105	170	1.014	1.007	3,2
濃縮オレンジ・ジュース	954	914	1.468	900	2,8
有機化学製品	1.027	948	742	732	2,3
紙及び製品	957	1.077	613	658	2,1
プラスチック製品	563	546	498	531	1,7
ゴム製品	120	150	305	358	1,1
ガソリン	1.658	1.140	405	235	0,7
無機化学製品	471	448	265	226	0,7
加工牛肉	70	85	133	219	0,7
シーツ・テーブル掛け他	18	18	164	185	0,6
メリヤス布地	9	15	120	164	0,5
綿 布 地	30	39	124	156	0,5
石油燃料油	1.890	1.702	215	156	0,5
金物・工具	30	23	127	146	0,5
精 製 糖	577	506	186	142	0,4
陶 器 類	235	232	140	140	0,4
アルミ加工品	52	49	115	114	0,4
煙 草	12	26	57	133	0,4
綿 糸	47	39	138	113	0,4
合 板	197	186	100	110	0,3
合成繊維	20	31	76	93	0,3
インスタント・コーヒー	51	32	147	97	0,3
サイザル・ロープ	62	75	55	67	0,2
生 糸	1	2	66	69	0,2
殺菌剤・除草剤	7	8	51	52	0,2
計量機器	3	3	62	72	0,2
家 具	24	30	42	62	0,2
厚 紙	8	8	79	76	0,2
ガラス製品	57	78	59	73	0,2
そ の 他	2.067	4.719	1.991	2.785	8,9

小　計	16.573	18.523	17.011	17.756	56,1
工業製品計	28.573	30.210	22.119	22.449	71,1
特殊取引	1.219	1.237	549	434	1,4
合　　計	168.095	166.918	31.414	31.621	100,0

出所：BANCO　CENTRAL

ロ）輸　入

1991年の輸入総額は、21.017百万ドルで前年を1,7 %増加した。この金額は、名目金額で見る限り石油の輸入額増大を理由として22.000百万ドルを越した1980年及び81年を次ぐ金額である。輸入額の中28,5% (5.962 百万ドル) は、資本財の輸入にかゝわる支出であり、35,4% (7.427 百万ドル) が原材料輸入、23,0% (4.838 百万ドル) が燃料油脂、13,1% (2.790 百万ドル) が消費財の輸入に向けられた。

これら輸入項目の構成割合は、大きく変化しており、資本財の輸入比率が前年と同率を保ったのに対し、燃料油脂は大巾に減少、その分原材料輸入比率の増大があった。

石油の輸入は前年に比して大巾に減少しており、重量において前年比(-)10,5 %、90年と比較しても(-)13,6 %の減少でその結果輸入金額を(-)22,6 %下げた。これは主に前年の特殊事情すなわち中東の湾岸紛争により高騰した石油価格によって増大した石油輸入が正常化したことをも示すものである。石油輸入額が輸入総額に占めた割合は16%で、前年の21,1%を下廻っており、又80年代当初の40%と比較すると大巾に減少していることは、特筆すべき現象である。

石油副産物の輸入額は、輸入量の68,7%増によって1990年の380 百万ドルより91年には691 百万ドルへと増大した。

表２０　　石油及び副産物の生産、輸出入及び消費量

内　　訳	1988	1989	1990	1991
石　　油				
国内生産量（1.000バレル／1日）	576	616	653	646
輸 入 量（　〃　）	639	592	571	507
輸入金額　（100万ドル）	3.194	3.390	4.354	3.370
1バレル当り価格　US$	13,66	15,70	20,89	18,26
石油副産物				
輸 入 量（1.000バレル／1日）	86	80	70	103
輸入金額　（100百万ドル）	321	364	380	691
1バレル当り価格　US$	10,20	12,47	14,87	18,43
輸 出 量（1.000バレル／1日）	135	129	92	74
輸出金額　（100百万ドル）	867	832	672	414
1バレル当り価格　US$	15,28	17,67	20,01	15,37
生産量／推定消費量比率　(%)	50,3	53,1	55,5	54,1
石油及び副産物輸入合計 100万ドル	3.515	3.754	4.734	4.061
輸入総額に対する割合　(%)	24,07	20,56	22,91	19,32
輸出総額に対する割合　(%)	10,40	10,92	15,07	12,84

出所：DECEX、PETROBRAS

90／91農年における農業生産の減少は、国内供給補給のための食糧輸入を余儀なくし、その輸入額を増加させた。中でもとうもろこし、米及び麺類の輸入増加が顕著であった。米の場合は、通常の関税は15%であるが国内供給を保証するための無税輸入が行われている。

小麦の場合は、輸入価格が前年比(-)35,2 %と大巾に下落したもの、輸入重量が前年を138,1 %上廻る大量ものであったため、前年と比較した輸入金額は54,2%増大した。このように小麦の輸入が増大したのは、国内生産の不足により国内供給の保証が得られなかったためであり、又政府の専売システムより民間の自由取引きシステムへの転換期における国内在庫補充のため、政府が不足分を過剰に評価した輸入を行ったための現象とも説明されている。

表２１　　小麦の生産、消費及び輸入

内　　訳	１９８８	１９８９	１９９０	１９９１
消費量（1.000 t）				
ブラジル（A）	6.380	6.950	7.400	8.092
世　界	530.440	534.670	572.140	557.670
生産量（1.000 t）				
ブラジル（B）	5.738	5.553	3.093	3.420
世　界	500.600	536.840	593.290	547.400
B／A　(%)	89,9	79,9	41,8	42,3
ブラジルの輸入量（1.000 t）	44,1	1.308	1.962	4.672,0
〃　輸入金額（100万ドル）	97	211	295	455
〃　輸入単価　(US$／t)	103	161	150	97

出所：ＣＩＥＦ、ＳＮＡＢ、ＵＳＤＡ

資本財の輸入額は、5.962 百万ドルで前年の5.932 百万ドルとほゞ同等の規模であった。機械器具及び電気機器の輸入額は4.968 百万ドルで(-)4%の減少、これに対し輸送機器の輸入は、前年を31,5%上廻った。中でも自動車輸入が大きくその輸入額は634 百万ドルに達している。機械器具及びその部品で国産類似品がなく、企業の資産に組入れられるものに対しては、輸入関税が全免されることゝなった。

化学製品の輸入量は、90年を19,9%上廻り、金額も7,6 %増の2.832 百万ドルであった。中でも有機化学製品の前年比11,4%増（1.429 百万ドル）が大きな割合いを占めた。

プラスチック及び加工品の輸入は、456 百万ドルで前年を18,8%増加した。これに対しゴム及び製品の輸入は 284 百万ドルで前年並みであり、いづれもその平均単価が前年を下廻ったのを特徴としている。木材パルプ及びセルローズの輸入は、重量において前年比18,2%、金額で12,9%の増加で合計445 百万ドルが支出されている。又1991年中には3.5 百万トンの肥料が輸入され376 百万ドルが支払われたが、これは前年の3.0 百万トン、319 百万ドルをいづれも上廻るものであった。

鋳鉄及び鉄鋼の輸入は前年に引き続いて減少しており、335 百万ドルの輸入が行われた。これに対し非鉄金属の輸入は、前年を5,1 %増加しており、433 百万ドルに達しているが中でも銅の226 百万ドルが大きな割合を占めた。このほか眼鏡器具の輸入額も大きく、前年を5,5 %上廻る898 百万ドルの輸入が行われたが、これは輸入総額の4,3 %を占めるものであった。

表２２　　輸入実績　１９９０年　９１年対比

品　　目	重　量　1.000 t		金　額　100万ドル		1991年の構成
	１９９０	１９９１	１９９０	１９９１	比率（%）
Ⅰ 消 費 財					
1）食 品	533	409	729	570	2,7
畜産物	181	248	152	149	0,7
野菜・苗類	242	220	145	165	0,8
果 実 類					

マテ茶・他	5	6	8	8	0,0
加工食品、飲料、煙草	802	744	345	383	1,8
小 計	1.763	1.627	1.379	1.275	6,0
2) 衣 料 品					
皮革及び加工品	21	20	203	199	0,9
衣料、装飾品	2	2	47	57	0,3
靴、帽子等	2	3	32	45	0,2
そ の 他	4	10	38	57	0,3
小 計	29	35	320	358	1,7
3) そ の 他					
真珠、貴石、半貴石	0	1	74	48	0,2
工具金物	6	6	92	113	0,5
金属加工品	2	3	12	22	0,1
眼鏡、計量器他	9	10	851	898	4,3
火薬、弾丸	0	0	1	5	0,0
そ の 他	4	6	60	71	0,3
小 計	21	26	1.090	1.157	5,4
消 費 財 計	1.813	1.688	2.784	2.790	13,1
II 原 材 料					
1) 小 麦	1.962	4.672	295	455	2,2
2) 肥 料	3.007	3.494	319	376	1,8
3) 化学製品					
無機化学製品	1.388	1.765	408	422	2,0
有機化学製品	842	941	1.283	1.429	6,8
タンニン材	39	38	192	159	0,7
写真、映画材料	6	7	110	127	0,6
化学工業製品	80	72	214	212	1,0
そ の 他	49	59	424	483	2,3
小 計	2.404	2.882	2.631	2.832	13,4
4) パルプ・セルローズ	407	481	394	445	2,1
5) プラスチック、ゴム製品	277	351	668	740	3,5
6) 鋳鉄及び鋼鉄	337	286	373	335	1,6
7) 非鉄金属	130	163	412	433	2,1
8) 塩、硫黄、土	1.537	1.470	125	137	0,7
9) そ の 他	3.180	4.435	1.360	1.674	8,0
原 材 料 計	13.241	18.234	6.577	7.427	35,4
III 燃料、油脂					
1) 石油及び副産物					
原 油	28.246	25.293	4.345	3.370	16,0
副 産 物	2.563	4.323	389	691	3,3
小 計	30.809	29.616	4.734	4.061	19,3
2) そ の 他	11.090	13.298	629	777	3,7
燃料、油脂計	41.899	42.914	5.363	4.838	23,0

Ⅳ 資 本 財					
1）輸送機器	49	84	756	994	4,8
2）機 械 類	210	215	5.176	4.968	23,7
資 本 財 計	259	299	5.932	5.962	28,5
合　　計	57.212	63.135	20.661	21.017	100,0

出所：ＣＩＥＦ（経済省）

ハ）　貿易相手国

1991年の貿易においては輸出先及び輸入先市場に可成りの変化があった。まず輸入面では、全体的には前年を 1,7 %上廻るものであったがＯＰＥＰ（石油輸出国）よりの輸入額は前年を(-)20,0 %下廻るものであり、91年の輸入が石油輸入の減少、その他の品目の輸入増加にもとづくものであったことを示している。ＯＰＥＰとの貿易収支は、伝統的にブラジル側の大巾な入超を続けて来たが、91年にはその貿易赤字を前年比(-)40,8 %減少し、1.559 百万ドルに止めた。ＯＰＥＰの輸入総額に占めた比率は、90年の21,4%より91年は16,7%に減少している。

ＯＰＥＰ諸国の中では、湾岸戦争の影響により、イラクとクエートよりの取引きが1990年以降中断されたゝめ、ブラジルへの石油供給は、サウジ･アラビア（1.283 百万ドル）イラン（918 百万ドル）及びベネズエラ（493百万ドル）を主要国とした。輸入減少に反してＯＰＥＰへの輸出は、前年比8,6 %の増加を示し貿易収支の赤字巾を縮少する理由を作った。ＯＰＥＰ諸国中、ブラジルよりの輸入が大きかったのは、ベネズエラ（429 百万ドル）、イラン（ 427 百万ドル）、サウジ・アラビア（358 百万ドル）、及びインドネシア（199 百万ドル）等であった。

ＡＬＡＤＩ（ラテン・アメリカ総合市場）との貿易は、ＡＬＡＤＩ諸国によるブラジルよりの輸入が減少したものの貿易量は大巾を拡大を示した。すなわちＡＬＡＤＩに対するブラジルの輸出は、前年を56%上廻る4.358 百万ドルに達するものであったゝめ、その貿易収支は1.198 百万ドルの黒字となり、前年に記録されていた(-)405百万ドルの赤字を反転させた。中でも隣国アルゼンチンとの貿易拡大が大きく、同国への輸出は前年比131 %という大巾な増加を示した反面、アルゼンチンよりの輸入は14,4%の増加に止まったゝめ、対アルゼンチンの貿易収支は前年の(-)773百万ドルよりの91年は139 百万ドルへと変化した。他のＡＬＡＤＩ諸国への輸出増加がいちじるしかったものとしては、メキシコ（48,5%）、チリー（38,8%）、パラグァイ（29,6%）及びウルグァイ（13,9%）等があげられる。この中、アルゼンチン、パラグァイ及びウルグァイとの貿易増大は、メルコスール（南部共同市場）の協定を反映した最初の現れであった。

米国は、1991年も又最大の輸出先及び輸入先市場としての立場を継続した。ブラジルの対米貿易収支は、1.311 百万ドルのブラジル側出超であったが、前年と比較すると輸出における(-)18,1 %減、輸入の12,7%増により、その収支残は前年を59,8%下廻るものであった。

他の重要かつ伝統的な市場である日本とも1.355 百万ドルの貿易黒字が計上されている。日本の場合は、米国と異って前年を22,9%上廻るものであったが、これは、対日輸出が前年より9,3 %増加したのに対し輸入が(-)2,7%減少したゝめであった。

ＥＣとの貿易は、ブラジルの輸出が前年と同レベルであったのに対しＥＣよりの輸入が10,6%増加したゝめ、その貿易収支は前年より(-)9,4%劣る5.094 百万ドルに止まった。国別の輸出額としては、オランダ（2.135 百万ドル）、ドイツ（2.102 百万ドル）、イタリー（1.348 百万ドル）が大きく、又輸入面ではドイツ（1.902 百万ドル）、イタリー（792 百万ドル）及びフランス（606 百万ドル）の順であった。国別の収支残ではオランダ（1.786 百万ドル）、輸出入合計額ではドイツ（4.004 百万ドル）が最大であった。

アフリカ大陸についてはエジプト（163百万ドル）南アフリカ連邦（162 百万ドル）及びモロッコ（124 百万ドル）への輸出が大きな割合いを占めている。

ＡＥＬＣ圏の場合はスイスとの貿易がもっとも重要で、前年を(-)33,6 %劣ったものゝその輸出額は、170 百万ドルこれに対し輸入は、前年並みの1.501 百万ドルであった。スエーデンに対するブラジルの輸出は、1990年の158 百万ドルより91年は163 百万ドルに増加している。

COMECON圏では、1991年中に発生した政治上、社会上の問題が障害となってブラジルの輸出は、前年を(-)39,8%下廻るものであった。

対カナダ貿易は、ブラジル側の輸出減少と輸入の増加が重ってその収支残は90年のブラジル出超116百万ドルより91年は、ブラジルの入超47百万ドルへと変化した。

日本を除くアジア諸国では、中国との貿易においてブラジルの輸出が(-)40,4 %、輸入が(-)45,8 %とそれぞれ減少しているが韓国に対しては、前年を23,7%上廻る672百万ドルの輸出、輸入も又119,5 %上廻った。又台湾に対するブラジルの輸出は、90年の432百万ドルより91年は608百万ドルに拡大、ブラジルの輸入も前年比42,7%増の117百万ドルであった。

以上のほかアジア諸国では、香港(276百万ドル)、タイ(269百万ドル)、シンガポール(235百万ドル)及びマレー半島(230百万ドル)の輸出が特筆される。

表23　　ブラジルの貿易相手国と実績　　100万ドル

ブロック及び国別	輸出 1990	輸出 1991	輸入 1990	輸入 1991	収支残高 1990	収支残高 1991
米国	7.675	6.285	4.412	4.974	3.263	1.311
EC						
ドイツ	1.788	2.102	1.754	1.902	34	200
オランダ	2.495	2.135	366	349	2.159	1.786
イタリー	1.596	1.348	649	792	947	556
英国	945	1.056	416	446	529	610
フランス	902	863	573	606	329	257
ベルギー	980	1.084	168	213	812	871
スペイン	704	706	211	223	493	483
その他	442	479	125	148	317	331
小計	9.852	9.773	4.232	4.679	5.620	5.094
ALADI						
アルゼンチン	639	1.476	1.412	1.615	(-)773	(-)139
チリー	484	672	485	494	(-) 1	178
メキシコ	505	750	190	204	315	546
パラグァイ	379	491	330	220	49	271
ウルグァイ	295	336	585	434	(-)290	(-) 98
その他	490	633	195	193	295	440
小計	2.792	4.358	3.197	3.160	(-)405	1.198
日本	2.350	2.568	1.247	1.213	1.103	1.355
COMECON	704	424	359	352	345	72
カナダ	522	464	406	511	116	(-) 47
AELC	622	533	955	966	(-)333	(-)433
以上の計	29.616	29.668	16.230	17.505	13.386	12.163
OPCP	1.798	1.953	4.431	3.512	(-)2.633	(-)1.559
その他	5.099	5.263	1.422	1.650	3.677	3.613
合計	31.414	31.621	20.661	21.017	10.753	10.604

出所：CIEF, DECEX

1．2．5　サービス収支

1991年におけるサービス収支残高は、13.177百万ドルの赤字で前年の赤字残を1.919 百万ドル減少した。赤字残高の減少は主に利息、利益、配当金の減少にもとづくものであった。これら利息、利益及び配当金の送金額は、1985－89年の平均でサービス勘定赤字残高の81,6％を占めていたが、90年と91年は、これを大きく下廻る75,1％及び70,5％に止まっている。これは主に観光レートの設定にもとづくもので、この中に含まれる外国旅行勘定及び各種サービス勘定は、同レートの設定以前は制度上の為替市場に現われない内容のものであったゝめである。

1991年の利息勘定は、9.493 百万ドルで前年を1.375 百万ドル減少した。これは主に国際金利、とくにＬＩＢＯＲの低下、すなわち89年７月より90年６月の期間における8,59％より90年７月～91年６月間における7,36％への低下にもとづくものであった。利息勘定の中、実際に送金されたのは4.296 百万ドルで、残りの5.197 百万ドルは支払遅延のまゝである。

国際金利の低下は、ブラジルの利息支払額を減少させたと同時にブラジルが外国に対し行っている投資にかゝわる利息の受取額をも前年の1.120 百万ドルより91年は872 百万ドルへと減少させている。

1991年における利益及び配当金の送金額は、688 百万ドルで前年の送金額（1.619 百万ドル）に比して(-)57,5 ％の減少であった。これは1991年以降最も少額の送金額である。この結果、ブラジル銀行に登録されている外国投資及び再投資額に対する送金額の割合いは、1990年の4,7 ％より91年は1,8 ％へと下っている。

利益及び配当金送金額の減少は、各種の理由にもとづくものであるが中でも90年３月に発足した新政府の新しい経済政策が90年当初にみられた経済不安の空気を緩和したことや新為替政策に影響されたほか、国内経済活動の減退ときびしい通貨管理も送金額を減少させた理由に加えられる。

91年にみられたこのような利益及び配当金送金額減少の理由は、又資本収益の国内への再投資を促す理由ともなった。すなわち1991年に行われた利益及び配当金の再投資額は、365 百万ドルで前年の273 百万ドルを33,7％上廻っている。

利息、利益及び配当金を除く、他のサービス勘定は収入の減少により91年中、その赤字残を前年比3,6 ％増加した。

この中、外国旅行勘定の赤字残は90年の(-)121百万ドルを91年には、(-)212百万ドルに増大した。同勘定の収入は、1.002 百万ドルで前年を(-)275％減少したが、これは主に外国における広報活動の減少と国境を接する近隣国おけるコレラの発生が重なって観光客を減少させた大きな理由としている。

このほか輸送勘定における赤字残は、前年とほゞ同等の(-)1.656百万ドル、保険勘定は、前の(-)68 百万ドルを91年に(-)132百万ドルへと増大した。

表２４　　サービス収支　　100万ドル

項　　目	1990			1991		
	収　入	支　出	残　高	収　入	支　出	残　高
国際旅行勘定						
観　光	1.347	1.328	19	974	997	- 23
そ の 他	36	176	- 140	28	217	- 189
小 計	1.383	1.504	- 121	1.002	1.214	- 212
輸送勘定						
運　賃	807	811	- 4	830	929	- 99
そ の 他	541	2.181	-1.640	627	2.184	-1.557
小 計	1.348	2.992	-1.644	1.457	3.113	-1.656
保険勘定	116	184	- 68	60	192	- 132
資本収支勘定						
利　息	1.120	10.868	-9.748	872	9.493	-8.621
利益及び配当金	27	1.619	-1.592	23	688	- 665

小　計	1.147	12.487	-11.340	895	10.181	-9.286
政府勘定	38	366	- 328	32	402	- 370
そ の 他	887	2.482	-1.595	777	2.298	-1.521
計	4.919	20.015	-15.096	4.223	17.400	-13.177

出所：BANCO CENTRAL DO BRASIL

1．2．6　資本収支

1991年における資本収支の残高は、4.513 百万ドルの赤字で前年の赤字残高（-4.988百万ドル）を9,5 %減少した。直接投資残高170 百万ドル、中長期融資残高(-)1.807百万ドル、短期融資残高(-)3.033百万ドル及びその他の資本勘定残高157 百万ドルの差引残高にもとづくものである。

直接投資残高170 百万ドルは、ブラジルの外国投資勘定残高1.015 百万ドルに対し、外国よりブラジルへの投資勘定残高が1.807 百万ドルの黒字を残したゝめに生じたものである。前年の1990年には、この二つの勘定残高が相殺されたゝめ直接投資残高は0であった。又ブラジルよりの外国投資は総額1.034 百万ドルであったがその大半（927 百万ドル）は、外国支店又は、子会社へ送金されたものである。

外国よりブラジルに対するリスク投資額は、1.440 百万ドルで過去8年間の平均額を157 %上廻るものであり、前年と比較しても93,3%の増加であった。中でも資本市場に対する投資額が前年の171 百万ドルを大巾に上廻る778 百万ドルに達したことが特筆される。その他の外国投資は、外国の親会社がブラジルの子会社に対して送金したものが432 百万ドル、ブラジル企業への資本参加が189 百万ドル、不動産の取得が7百万ドルであった。

外国資本の本国償還額は、323 百万ドルで前年を26百万ドル増加しているが、この中199 百万ドルは資本市場にかかわるものであった。

中長期融資の中、国際金融機関より受入れた資金は、1.143 百万ドルで、この中856 百万ドルは通貨による貸付け資金で前年とほとんど同額のものであった。国際金融機関としては、世銀の840 百万ドル及びＢＩＤ（米州開発銀行）の241 百万ドル、ＣＦＩ62百万ドルの内訳となっている。

バイアーズ及びサプライヤーズ・クレジットの総額は、935 百万ドルで90年に比して(-)32,5 %の減少であった。この中政府機関による融資は、47百万ドルでＣＷＢ（カナダ穀物庁）よりの小麦輸入に対する25百万ドル、米国輸出入銀行クレジット15百万ドル、その他機関による7百万ドルによっている。

表２５　　資　本　収　支　　100万ドル

項目	受入 1989	受入 1990	収支 1989	収支 1990	残高 1989	残高 1990
投資勘定						
ブラジルよりの対外投資	1	19	732	1.034	- 731	-1.015
外国の対ブラジル投資	1.028	1.508	297	323	731	1.185
小　計	1.029	1.527	1.029	1.357	0	170
中長期融資						
ブラジルの対外融資	122	71	172	170	- 50	- 99
外国よりの融資	4.385	6.122	8.665	7.830	-4.280	-1.708
国際金融機関	1.172	1.143	1.565	1.448	- 397	- 305
政府機関	916	47	3.099	2.513	-2.183	-2.466
ｻﾌﾟﾗｲﾔｰｽﾞ・ﾊﾞｲﾔｰｽﾞ・ｸﾚｼﾞｯﾄ	1.386	935	2.117	2.240	- 731	-1.305
国　債	22	1.105	178	75	- 156	1.030
通貨貸付	889	2.892	1.694	1.550	- 805	1.342
そ の 他	-	-	8	4	- 8	- 4

小　計	4.507	6.193	8.837	8.000	-4.330	-1.807
短期資本	2.163	1.727	3.371	4.760	-1.208	-3.033
その他の資本	1.033	275	483	118	550	157
計	8.732	9.722	13.720	14.235	-4.988	-4.513

出所：BANCO CENTRAL DO BRASIL

1．2．7　対外債務及び外貨保有高

ブラジル中央銀行の年次報告書による1989－91年間の対外債務、外貨保有高ほか、ブラジルの外貨にかゝわる指数は次表の通りである。

表26　　ブラジルの外貨にかゝわる指数　　100万ドル

内　　訳	1987	1988	1989	1990 (P)	1991 (P)
外債元本の償還及び利息支出額					
元　　本	4.219	5.541	5.582	4.620	5.322
利　　息	5.543	13.836	7.237	3.490	6.694
小　計	9.762	19.377	12.819	8.110	12.016
登録済債務額　(A)	107.514	102.555	99.285	96.546	92.996
外貨保有高　(B)	7.458	9.140	9.679	9.973	9.406
純債務額 (C) ＝ (A－B)	100.056	93.415	89.606	86.573	83.590
非登録債務額　(D)	13.660	10.914	15.811	26.282	30.236
債務額合計 (E) ＝ (A＋D)	121.174	113.469	115.096	122.828	123.232
輸 出 額	26.224	33.789	34.383	31.414	31.621
PIB　※	360.810	371.999	399.647	398.747	418.270
元本及び利息支払額／輸出額 (%)	37	57	37	26	38
〃　　／PIB (%)	3	5	3	2	3
債務合計／輸出額 (%)	462	336	335	391	390
〃　／PIB (%)	34	31	29	31	29

出所：BANCO CENTRAL DO BRASIL

注：P＝予備推定値

1．3　1992年度の経済指標

1．3．1　物価動向

表27　　INPC（全国消費者物価指数）

月　別	90年12月＝100 の指数	月当り上昇率 (%)	年度内上昇率 (%)	過去12ヶ月間上昇率(%)
92年　1月	724,17	25,92	25,92	498,74
2月	901,45	24,48	56,75	520,96
3月	1.096,34	21,62	90,63	574,59
4月	1.324,82	20,84	130,36	670,29
5月	1.649,40	24,50	186,80	805,57
6月	1.993,30	20,85	246,60	887,86
7月	2.433,42	22,08	323,13	975,40

8月	2.978,02	22,38	417,83	1.038,30
9月	3.692,69	23,98	542,00	1.120,59
10月	4.654,69	26,07	709,37	1.170,91
11月	5.720,15	22,89	894,64	1.134,84
12月	7.183,36	25,58	1.149,06	1.149,66

出所：ＩＢＧＥ

表２８　　ＩＧＰ（総物価指数）

月　別	89年12月＝100 の指数	月当り上昇率（%）	年度内上昇率（%）	過去12ヶ月間上昇率(%)
92年　1月	11.602,00	26,84	26,84	513,59
2月	14.478,69	24,79	38,29	532,27
3月	17.475,82	20,70	91,06	611,59
4月	20.716,27	18,54	126,48	675,75
5月	25.366,26	22,45	177,32	791,69
6月	30.798,76	21,42	236,71	885,47
7月	37.479,64	21,69	309,75	962,84
8月	47.052,20	25,54	414,41	1.055,40
9月	59.932,61	27,37	555,23	1.166,57
10月	74.878,69	24,94	718,63	1.157,43
11月	93.017,87	24,22	916,94	1.142,05
12月	115.062,71	23,70	1.157,95	1.157,95

出所：ＦＧＶ

表２９　　その他の指数

月　別	ＴＲ　(%)	ＵＦＩＲ	定期預金利息（%）	最低賃金　CR
92年　1月	25,48	597,06	26,10	96.037,33
2月	25,61	749,91	26,23	96.037,33
3月	24,27	945,64	24,89	96.037,33
4月	21,08	1.153,96	21,68	96.037,33
5月	19,81	1.382,79	20,40	230.000,00
6月	21,05	1.707,05	21,65	230.000,00
7月	23,69	2.104,28	24,30	230.000,00
8月	23,22	2.546,39	23,83	230.000,00
9月	25,38	3.135,62	26,00	522.186,94
10月	25,07	3.867,16	25,69	522.186,94
11月	23,29	4.825,51	23,90	522.186,94
12月	23,95	6.002,55	24,56	522.186,94

出所：

表３０　　為替レート（月末レート）

月　別	自由レート（A）		平行レート（B）	
	買い	売り	買い	売り
92年　1月	1.319,30	1.319,40	1.275,00	1.295,00

2月	1.630,80	1.630,90	1.590,00	1.605,00
3月	1.987,95	1.988,05	1.970,00	2.000,00
4月	2.396,00	2.396,10	2.550,00	2.600,00
5月	2.849,00	2.849,10	2.950,00	2.990,00
6月	3.413,40	3.413,70	3.650,00	3.700,00
7月	4.204,50	4.204,60	4.600,00	4.650,00
8月	5.127,00	5.128,00	5.650,00	5.740,00
9月	6.391,00	6.392,00	7.230,00	7.330,00
10月	8.034,00	8.034,10	8.400,00	8.500,00
11月	9,949,70	9,949,82	10.900,00	11.000,00
12月	12.242,00	12.243,00	14.200,00	14.600,00

出所：FOLHA DE SÃO PAULO

1．3．2　貿易状況

表31　　1922年の月別貿易収支　　100万ドル

月　別	輸　出　FOB	輸　入　FOB	残　　高
92年　1月	2.570	1.662	908
2月	2.390	1.529	861
3月	2.900	1.463	1.437
4月	2.744	1.503	1.240
5月	2.995	1.565	1.430
6月	2.975	1.656	1.318
7月	3.464	1.931	794
8月	3.036	1.666	1.370
9月	3.035	1.630	1.405
10月	3.274	1.975	1.299
11月	3.316	1.784	1.532
12月	3.509	2.177	1.332
合　計	36.202	20.542	15.665

出所：MINISTERIO DA INDUSTRIA E COMERCIO

ＤＥＣＥＸ（外国貿易局）が発表した92年度の貿易収支予備推定によると年間を通じた輸出額は、36.207百万ドルで史上最大の記録となっている。この中に占める工業製品の割合いは60％で4.659 百万ドルに達しており、これ又これまでの記録であった88年の実績を13％上廻るものであった。

主要輸出品目は、基礎製品としては鉄鉱石、大豆粕、コーヒー（豆）、大豆（豆）、ブロイラー、煙草葉、工業製品の中半加工品では、アルミ粗金、鉄鋼半製品、木材パルプ、又完成品としては、靴及び部品、鉄鋼薄板、濃縮オレンジ・ジュース、自動車及び部品、内燃機関等を主要品目としている。

92年輸出の中で大きな変化をみたのは、隣国のアルゼンチンに対する輸出が急激に増加し、米国に次ぐ大型の輸出先市場となったことである。これは、メルコスール（南部共同市場）の発足（95年１月）を控えすでに段階的な関税の引下げが行われている中で両国間の通商関係が拡大していることのほか、アルゼンチンで実施されている経済安定

政策の中でペソの対米ドル平価を１：１に維持する為替政策がペソの過大評価を招き、同国の輸出を阻害した反面、ブラジル製品が極めて安価なものとなって大量に購入されたゝめである。この結果、アルゼンチンに対するブラジルの輸出は、91年の1.476 百万ドルより92年にはこれを100％上廻る3.069 百万ドルに達する状況であった。ブラジルの貿易当局によると92年の対アルゼンチン輸出は、予想をはるかに上廻るものであり、両国間の貿易関係が極度にアンバランスとなっているためこれを修正する必要もあり、93年には同様の事態は繰返えされないだろうとの見通しを持っているが、メルコスールの進展に伴ない今後も依然として大型の市場であることに変化はしないものと思われる。

92年におけるブラジルの輸出は、良好な成果を残したものゝＰＩＢ（国内総生産）や世界貿易に占める比率からみると未だ大きなものではなく、ＰＩＢに対する比率ではＡＬＡＤＩ（ラテン・アメリカ自由貿易市場）の平均15％を下廻る13％に止まっており、更に拡大の余地が残されているものといえる。

表３２　　１９９２年の輸出先市場

輸出先市場	輸出額 FOB 100万ドル	構構成（%）	前年比　増減（%）
Ｅ　　Ｃ	10.729,7	29,63	8,94
ＡＬＡＤＩ（ﾗﾃﾝ･ｱﾒﾘｶ）	7.625,7	21,07	54,45
米国（ﾌﾟｴﾙﾄ･ﾘｺを含む）	7.120,5	19,67	11,93
アジア（中東を除く）	5.622,9	15,53	- 1,13
中　　東	1.295,5	3,58	15,16
アフリカ	1.139,8	3,15	10,13
ＡＥＬＣ（ヨーロッパ）	432,8	1,19	-18,78
カ ナ ダ	402,2	1,11	-13,35
東ヨーロッパ	374,9	1,04	1,82
航空機及び船舶	274,6	0,76	18,44
西ヨーロッパ（その他）	250,3	0,69	1,47
大 洋 州	238,2	0,66	- 3,17
ＭＣＣＡ（中米）	207,3	0,57	77,89
そ の 他	489,3	1,32	-
計	36.207,1	100,00	14,51

出所：MINISTERIO DE INDUSTRIA E COMÉRCIO

（1992年の輸入状況）

ＤＥＣＥＸ（大蔵省外国貿易局）が３月始めに発表した1992年の輸入統計によると同年の輸入総額は、20.500.3百万ドルで前年を(-)2,4％下廻るものであった。全体的にみて前年と大きな変化はないが前年に引き続き、輸入重量の増加にかゝわらず平均価格の低下によって輸入金額を落しているのが観察される。

外国貿易によると、国際的にコモディティ価格が下降傾向にあるのに対し、国内経済のリセッションにより、技術的に高度でなく従って安価な製品を求めたあとがあること、国際的なリセッションの下で貿易相手国も販売拡大のため輸入側にとってより有利な条件を示し、これが直接価格に反映したものであると説明している。

ＤＥＣＥＸの統計によると、輸入重量が91年に比して10,7％増加したのに対し、価格指数は(-)12,1 ％の下落とみている。すなわちブラジルは、92年中前年よりもより多くの商品をより安く購入したことになる。同外国貿易局によると若し前年と同一価格水準であったなら輸入額は、255 億ドルの記録を作ったであろうと推定している。

同様の状況は輸出面にも観察されており、重量において31,2％の増加をみた反面平均価格は、(-)12,74％の下落であった。輸出総額が前年を上廻ったのは、重量の増加率が価格の低下率に勝ったゝめであり、同一条件での輸出が行われた訳ではない。92年に記録された362 億ドルの輸出額の75％を占めた工業製品（268.8 億ドル）においても重量で

41,2%の増加、平均価格で(-)15,2 %の下落であった。

外国貿易研究センター（FUNCEX）によるとこの傾向は、国際間のリセッション、とりわけブラジルの最大の貿易相手国である米国のリセッションが影響したものであるという。同センターによるとブラジルの場合、先進国と異って国際間の企業間貿易が発達していないため、輸出入商品価格は、国際経済情勢に敏感に影響されるものであると説明している。

ブラジルにおける輸入能力の低下は、資本財の輸入統計に現われている。すなわち92年における機械及び器具の輸入は、62.5億ドルで前年の59.6億ドルを4,9 %増加するものであったが、この輸入増加も輸入重量の増加（12,77 %）にもとづくものであり、平均単価は(-)6,71 %の減少であった。資本財の80%を占める"機械器具及び電気機械"の輸入額は、前年と同様に49.9億ドルであったがこれも重量における13,13 %の増加が平均価格における(-)12 %の減少をカバーしたゝめであった。

ＩＢＧＥによると資本財の中、量と価格がいづれも増加したのは輸送機器のみで、とくに乗用車輸入の影響にもとづくものであった。その輸入額は、前年の638 百万ドルより92年には、833 百万ドルに増加している。重量指数において27,5%、価格指数で9,27%の増加であった。

原材料輸入（73.2億ドル）も全体の傾向と同様に重量の増加（9,4 %）、平均価格の低下（-13,2 %）をまねいている。中でも硫黄、鉱物類、有機化学製品、薬品及び鋳鉄においてその傾向が観察された。消費財も同様に量において8,4 %増、平均価格で(-)26,35%の減少であった。

燃料及び鉱物資源の輸入も平均価格の低下（-9,13 %）により輸入量の増加（11,2%）にかゝわらず、前年並みの48.8億ドルの輸入額を維持している。中でも石油の輸入は、量で前年を3,8 %増加しながら輸入に支出した外貨は、前年を(-)7,37 %下廻るものであった。

表３３　　ブラジルの輸入：1988年を100とした価格及び量の推移　　1988年＝ 100の指数

年　度	原材料		消費財		燃料鉱物		資本財		合　計	
	価格	量	価格	量	価格	量	価格	量	価格	量
１９８８	100,0	100,0	100,0	100,0	100,0	100,0	100,0	100,0	100,0	100,0
８９	103,5	127,4	96,3	196,4	113,8	94,1	109,3	106,3	106,6	117,3
９０	96,1	139,4	87,5	244,4	146,1	88,7	117,4	120,5	112,2	127,2
９１	89,1	169,3	84,9	251,0	132,1	88,5	109,4	130,0	103,1	139,5
９２	77,4	185,2	62,5	271,4	120,0	98,5	102,0	146,6	90,6	154,5

出所：ＤＥＣＥＸ

表３４　　輸入実績　９１年・９２年対比

項　目	１９９１		１９９２		増減(%)
	100万ドル	%	100万ドル	%	
A）原材料					
穀　類	474,3	2,26	247,5	1,21	- 47,82
麺類、麦芽、澱粉	606,6	2,89	661,1	3,22	8,99
無機化学製品	422,3	2,01	394,6	1,93	6,56
有機化学製品	1.429,2	6,80	1.364,5	6,66	- 4,53
肥　料	375,9	1,79	456,5	2,23	21,45
プラスチック製品	455,9	2,17	457,3	2,23	0,31
ゴム及び製品	284,5	1,35	276,7	1,35	- 2,74

繊維製品	499,7	2,38	491,7	2,40	- 1,60
木材、炭、木材製品	25,7	0,12	28,9	0,14	12,45
紙及び製品	295,9	1,41	222,0	1,08	- 24,96
鋳鉄、鉄鋼	335,0	1,59	352,6	1,78	5,25
銅及び製品	226,1	1,08	235,4	1.15	4,12
そ の 他	2.232,0	10,61	2.131,2	10,39	- 4,52
小 計	7.663,1	36,46	7.320,0	35,71	- 4,48
B) 消費財					
肉加工品	124,3	0,59	120,9	0,59	- 3,02
魚類水産物	173,1	0,82	116,6	0,57	- 32,63
乳製品、蜜製品	213,4	1,02	75,4	0,37	- 64,66
飲料、酢	267,9	1,27	94,0	0,46	- 64,90
眼鏡、写真機、医療機器	822,5	3,91	824,4	4,02	0,23
そ の 他	952,3	4,54	802,7	3,91	- 15,71
小 計	2.553,9	12,15	2.034,0	9,92	- 20,36
C) 燃料及び鉱物					
石 油	3.370,6	16,04	3.122,0	15,23	- 7,37
石 炭	570,3	2,71	565,3	2,76	- 0,87
そ の 他	897,2	4,27	1.201,5	5,86	33,91
小 計	4.838,1	23,02	4.888,8	23,85	1,05
D) 資本財					
機械器具	3.111,0	14,80	3.171,5	15,47	1,94
電気機器	1.841,0	8,76	1.818,2	8,87	- 1,29
自動車及び部品	633,8	3,02	882,9	4,31	- 48,18
そ の 他	375,6	1,79	384,9	1,87	2,49
小 計	5.962,3	28,37	6.257,5	30,52	4,95
合 計	21.017,4	100,00	20.500,3	100,00	- 2,46
石油を除いた額	17.646,8	83,96	17.378,3	84,77	- 1,52

出所：DECEX

1．3．3 農業生産状況

表35 1991／92農年の生産状況（1992年10月調査）

作 物 別	面 積 1.000ha	生産量 1.000 t	平均反収 Kg／ha
A) 穀 類			
とうもろこし	13.466,4	30.637,3	2.275
米	4.699,3	9.974,4	2.123
小 麦	1.983,6	2.685,9	1.353
フェイジョン	5.193,1	2.839,6	547
ソルガム	160,8	285,9	1.779
大 麦	67,8	129,0	1.901
からす麦	282,5	300,5	1.063
ラ イ 麦	5,9	6,1	1.026

小 計	25.859,4	46.858,7	
B) 油脂作物			
大 豆	9.419,1	19.181,0	2.036
綿 (草 綿)	1.591,6	1.848,3	1.161
〃 (木 綿)	284,2	26,3	92
落 花 生	99,3	170,3	1.715
ヒ マ	180,5	114,0	632
小 計	11.574,7	21.339,7	-
A+B	37.434,1	68.198,6	-
C) 工業原料作物			
砂糖キビ	4.188,9	270.173,6	64.498
マンジョカ	1.892,1	22.916,8	12.112
煙 草 葉	340,8	570,8	1.675
サイザル	283,4	217,3	767
マ ル パ	15,3	15,3	1.003
ジュート	4,3	5,3	1.239
ラ ミ ー	5,3	6,5	1.226
小 計	6.730,1	293.905,6	-
D) 嗜好作物			
コーヒー	2.522,8	2.598,5	1.030
コ コ ア	674,5	351,8	522
ピメンタ	34,1	71,4	2.096
グァラナ	6,8	2,5	361
小 計	3.238,2	3.024,2	-
E) 果 実 類			
オレンジ (1)	982,7	98.073,8	99.801
バ ナ ナ (2)	514,9	564,3	1.096
パインアップル(3)	34,4	780,6	22.691
ブ ド ウ	57,3	742,1	12.950
リ ン ゴ (4)	24,0	2.893,7	120,7
コ コ 椰子 (5)	233,0	868,5	3.725
ガジューナット	648,0	202,2	312
小 計	2.494,5	-	
F) 野 菜 類			
じゃがいも	172,5	2.430,9	14.092
ト マ ト	51,4	2.112,5	41.137
玉 ね ぎ	75,6	888,0	11.748
にんにく	16,8	83,3	4.955
小 計	316,3	5.514,7	-
合 計	50.213,2	-	-

出所：ＩＢＧＥ　注：(1)(3)(4)(5)～生産量 1.000個　反収　個／ha　(2)～生産量 1.000房　反収　房／ha

2　農業界の動向

2．1　主要農業政策

7千万トンを越す史上第2の大型収穫により国内供給態勢が正常化した92年の農業政策としては、再び余剰農産物の海外輸出に重点を置き国内向農産物の過剰生産による政府の資金支出を減少する方向とすることを基本方針とした92／93農年夏期作の政策が実施された。

次期穀類の生産目標としては、91／92農年におけるとうもろこしが31.8百万トンの記録的量に達し、その買上げ又は販売融資のために多額の資金支出を余儀なくされたことから次期農年はその生産を押さえ、それに代って国際市場が順調に推移している大豆の生産を奨励する方針としたのを大きな特徴としている。

92年8月に発表された次期農年に対する政策内容は、次のようなものであった。

イ）　農業融資

農業融資の資金量については、生産者団体が要求する資金量を考慮し、総額52億ドル相当額が準備された。同資金はブラジル銀行、国庫及び一般銀行の農業融資義務額より支出されたもので、前年の資金量43億ドルを9億ドル上廻る資金量により92／93農年の作付けに支障を来たさない態勢がとられた。たゞしこの資金は、政府が前農年にすでに貸付けた融資金の回収を前提とするものであり、又、この中約10億ドルは、91／92農年収穫物の販売融資（ＥＧＦ）に貸付けられており、その回収は年末まで続く性質のものも含まれていた。この他ブラジル銀行資金の中では、補助的利息をカバーするために向けられる資金も含まれており、金額が生産費に融資されたものではない。

これらの融資は、最低価格保証制度に含まれる作物及び基礎食糧に含まれる作物に優先的に向けられこと丶なったが、州立銀行資金は、農業融資マニュアルに定められているすべての作物に対して融資されている。

農業融資の対象とされる生産者の規模別分類については、昨年の農業政策においてそれまで分類されていた大、中、小及びミニ生産者の区分の中、ミニ生産者の分類を廃止して小生産者に含めた方法を再び改訂し、ミニ生産者の分類を復活させ、代りに大中生産者を一括して“その他の生産者”に変更すること丶なった。又生産規模の算出は、新たにＵＲＥＦ（UNIDADE DE REFERENCIA RURAL E AGROINDUSTRIAL農業及びアグロインダストリー価格調整単位）が設定されている。これは、最低価格や生産者の規模別分類の基準となる年間売上高等をインフレに応じて調整するため、定期的に中央銀行が決議や布告を発表してきた煩雑さを排除し、92年8月の1UREF=CR 1.000 として以後毎月のインフレ率ＴＲに応じて自動的に変動させる方法としたものである。以上にもとづく生産者の分類は次の通りである。

a）ミニ生産者：年間総売上高が25.000UREF（92年8月価格でUS$ 5.500,-）に満たぬ生産者

b）小生産者　：年間総売上高が25.000UREF以上75.000UREF（約US$ 16.600,-）までのもの

c）その他の生産者：年間売上高が75.000UREF以上のもの

注1）年間総売上高の算出方法は、1年間の生産量に最低保証価格を乗じた金額とし、最低価格がない作物の場合は、金融機関が認める市場価格とする。

注2）ミニ及び小農業者の分類に含まれるためには売上高の少なくとも80％までが農牧活動にもとづくものでなければならない。

注3）養鶏、養豚、野菜、乳牛、養蚕の場合は年間売上高の50％を基準とする

各カテゴリー別の融資利息は、ミニ生産者に対しては特別措置として年利6％＋ＴＲ（インフレ率）小農業者年利9％＋ＴＲ、中・大農年利12,5％＋ＴＲとした。

この生産者カテゴリーの変更は、従来の方法に比して小農業者の生産高上限を引き上げると同時に銀行の農業融資義務額の30％をミニ及び小農業者に向けねばならぬ規定を設定したことから、これら小型生産者への保護を強化した政策内容となっている。この他、ミニ及び小農業者は、農業投資に対する融資もこの資金の中から要求出来ること丶なった。

農業投資に対する融資々金としては、ＦＩＮＡＭＥ（経済社会開発銀行工業融資）資金より５億ドルが支出されることゝなり、インフラやアグロインダストリー部門へ融資されることゝなった。しかしこの資金量はすでに老朽化している機械器具や車輌類を更新するには十分なものではなく、又過去の実績と比較する場合、1988年における26億ドル、89年の13億ドル、90年の８億ドルに対しはるかに低い規模のものであった。

ロ）　生産費融資基準額（ＶＢＣ）

生産費融資基準額（ＶＢＣ）は、農業生産において１作物の生産費支出額の一つの指標であり地域別、技術別（生産性別）に生産に必要とする費用を算出し、作物別に設定された融資枠と共に銀行の融資基準とされる制度である。

この制度は又特定作物の生産を奨励する場合、ＶＢＣそのものゝ引上げ、又は融資枠の拡大を通じて生産者の作付意向を刺激する方法も用いられるもので最低保証価格と共に重要な農業政策手段ともされている。

92／93農年に対するＶＢＣの設定基準をみると米、フェイジョン、とうもろこし及び大豆の生産においてＶＢＣとして設定された最高限度の生産性を越すものに対しては、その必要資金が保証される形となっている。又92／93農年の農業政策の中で新しく設定されたEMBRAPAによる農業環境地域分類では国内を92地域に分類して、それぞれの地域毎に環境保存地域、採集地域、牧畜地域及び農耕地域を明らかとした指導書が作成され、出先機関を通じて生産者に配布されているが、このEMBRAPAの指導にもとづいて作付を行う生産者に対しては、ＶＢＣの融資制限枠とはかゝわりなく100％の融資を行う恩恵が与えられている。同EMBRAPAの指導者は４種に別れており、第１はセラード地帯における米作、第２が中央・高原地帯におけるフェイジョン作、第３は中央・高原、セラード地帯、ミナス・ジェライス州及びゴヤス州のテーラ・ロッシャ地帯におけるとうもろこし作、第４はその他７地域における作付指導が行われている。

92／93農年のＶＢＣの融資限度及び大豆の場合をとったＶＢＣは、次表の通りである。

表３６　　92／93農年に対するＶＢＣの融資限度　　％

作　物　別	ミニ及び小生産者	その他の生産者
綿　（草　綿）	90	80
水　　稲	90	80
陸　　稲	90	80
フェイジョン	90	80
とうもろこし	90	80
大　　豆	80	60
マンジョカ	90	80
その他の作物	80	60

出所：ＣＯＮＡＢ

表３７　　大豆のＶＢＣ（生産費融資基準額）　　92／93農年

生産性（1haあたり）	ＶＢＣ（ＣＲ）	ＶＢＣ（UREF）	融　資　時　期
1.200Kgまで	688.799,00	688.799	第１回　８月　80%
1.200 ～ 1.600Kg	812.554,00	812.554	第２回　10月　10%
1.600 ～ 2.000Kg	999.839,00	999.839	第３回　２月　10%

出所：ＣＯＮＡＢ

主要作物（綿、米、フェイジョン及び大豆）にかゝわるＶＢＣの年間調整率については、全般的に生産コスト、最低価格、インフレ率（ＴＲ）等の年間調整率を上廻る指数となっており、中でも政府がその生産増大を図っている大豆では、もっとも高い調整率とし、逆に生産を押えようとするとうもろこしの場合は、低い調整率とされている。

表３８　　ＶＢＣの年間調整率と他の指数との対比　91年８月～92年８月間　　(%)

作　物　別	ＶＢＣ	生産コスト	最低　価格	ＴＲ
綿	1.017	653	1.129	1.017
陸　稲	1.278	889	1.129	1.017
フェイジョン	1.150	1.046	1.006	1.017
とうもろこし	1.183	1.197	1.016	1.017
大　豆	1.438	1.216	1.129	1.017

出所：ＣＯＮＡＢ，ＩＥＡ

ハ)　最低保証価格

92／93農年に対する政府の最低保証価格は、92年８月国家通貨審議会によって発表された。主要作物の最低保証価格は、次の表の通りである。

表３９　　92／93農年の最低保証価格　92年８月価格

作　物　別	単　位	開始時期	UREFによる価格修正期間	最　低　価　格	
				CR (92年８月)	UREF　表示
綿　(実　綿)	15 Kg	93年２月より	93年７月まで	21.198,15	1,413,210
水　稲　(籾)	50 〃	93年２月より	93年７月まで	41.790,00	0,835,800
陸　稲　(籾)					
中央・南部	60 〃	93年２月より	93年７月まで	36.884,40	0,614,740
北部（トカンチンスを除く）	60 〃	93年２月より	93年７月まで	33.602,60	0,560,210
カルナウーバ	15 〃	92年９月より	93年８月まで	71.163,60	4,744,200
フェイジョン（色つき）	60 〃	92年11月より	93年３月まで	104.169,00	1,736,150
〃　（黒）	60 〃	92年11月より	93年３月まで	104.169,00	1,736,150
ジュート及びマルバ	1 〃	93年２月より	93年９月まで	1.465,35	1,465,350
マンジョカ	1 〃	93年１月より	93年12月まで	106.280,00	0,106,280
とうもろこし（中央・南部地方）	60 〃	93年２月より	93年７月まで	26.369,40	0,439,490
サ　イ　ザ　ル	1 〃	92年９月より	93年８月まで	786,31	0,786,310
ぶ　ど　う	1 〃	93年２月より	94年１月まで	425,43	0,425,430

出所：CONSELHO MONETARIO NACIONAL

ニ)　その他の措置

－PROAGRO（農業保険）の保険金精算

従来、未精算のまゝとなっていたPROAGROの精算を開始することを発表し７千億クルゼイロの資金準備を行った。

－生産資材に対する輸入関税の引下げ

農業機械部門の競争力を強化し生産性の向上を図るため、トラクターの輸入関税を30%より20%引き下げた。

－全国農牧調査システム（ＳＮＰＡ）設置

EMBRAPA（ブラジル農牧研究公社）によって統轄される全国の調査研究システムを設置した。これには連邦、州の農牧研究機関、農牧開発機関、大学の研究機関、農業協同組合、生産者団体、その他の関係機関が包含される。生産者が直面する問題点に迅速に対応出来る態勢を作ることを目的とする。

－貯蔵倉庫の民間移行

貯蔵業務の民間移行を図る方針の中で約600国有倉庫を民間に売却する方針であり、この中130倉庫が短期に処分されることゝなった。

—PROMOAGRO 資金対策

PROMOAGRO（PROGRAMA DE MODERNIZACAO DA AGROPECUARIA DA REGIAO CENTRO-SUL 中央・南部地方の農牧活動近代化プログラム）の資金としてＢＩＤ（米州開発銀行）による135 百万ドルの資金融資申請を行うことを決定した。

以上92年８月に発表された一連の政策“農業パコッテ”は、すでに歴代の政府が行ってきた政策の継続であり、とくに目新しいものではないが、基礎農産物に対する融資の増額と生産性の向上に重点を置いたところに特徴がある。中でもEMBRAPA によって作成され、地域別の特性に応じた営農指導書は従来にない方法であり、米、フェイジョン、とうもろこし、大豆等の基礎作物の生産者の技術向上を図ると共にこれに対して融資を行う金融機関にとっても貴重な指導書とされている。

政府としては高い技術を用いる生産者に対し、それに応じた融資準備を行うことによって生産の拡大を図る意向であるが、農業界ではこのような政府の方針に対して批判を行う声も多い。すなわち政府の農業政策は短期融資に重点を置く近視眼的なものであり、老朽化し、すでに償却期間を過ぎた機械車輌の更新や土壌の改良に対する投資を不可能としているというものであり、現在の機械化態勢の拡大が生産の増大を達成し得る基本的条件であることが考慮されていないというものである。

このような環境の中で、又現今の国内情勢下において次期農年も又91／92農年の生活量を繰返えすことが限度であろうと想定されている。又91／92農年に関しては、収穫物の販売段階において資金不足の問題を生じたが、コーロル政権３回の収穫の中ではもっとも良好な農産物市況、中でも一部作物の海外市場の好調に支えられた年であった。

２．２　生産資材部門の動向

２．２．１　農　薬

ＡＮＤＥＦ（全国農薬工業連盟）のデータによると、ブラジルの農薬部門は、国内の低調な経済活動にかゝわらず、80年代の後半には急速な成長をみており、その販売高は87年の826 百万ドルより90年には、1.084 百万ドルに達するが、これを頂点として91年には、前年を(-)10,7 ％減少する968 百万ドルに止まった。91年の農薬販売が更に大きな低下をみなかったのは、除草剤の前年比減少率が(-)2,4％に止まったゝめであるが、その結果、農薬の総販売高に占めた除草剤の割合いは55％へと増加した。他の農薬の減少は大きく、殺ダニ剤が(-)39,8 ％、殺虫剤が(-)15,4 ％、殺菌剤(-)14,0 ％で全体への割合いは、それぞれ5,8 ％、23,9％及び15,2％となっている。

表４０　　農薬の販売重量及び販売高

農　薬　別	１９８７	８８	８９	９０	９１
殺虫剤					
全　額　US$ 1.000	206.086	226.841	223.351	262.853	222.007
有効成分重量　t	14.109	14.979	14.689	…	…
殺ダニ剤					
全　額　US$ 1.000	38.395	60.634	90.804	93.352	56.219
有効成分重量　t	1.237	2.214	7.172	…	…
殺蟻剤					
全　額　US$ 1.000	6.660	6.141	11.253	10.550	9.178
有効成分重量　t	63	56	129	…	…
殺菌剤					
全　額　US$ 1.000	173.733	162.732	147.451	170.990	147.112
有効成分重量　t	17.545	20.541	14.089	…	…

除草剤					
全　額　US$ 1.000	401.431	447.905	507.650	546.588	533.591
有効成分重量　t	24.471	25.777	25.741	…	…
合　計					
全　額　US$ 1.000	826.305	904.253	980.509	1.084.333	968.107
有効成分重量　t	57.425	63.567	61.820	…	…

出所：ANDEF

表41　　年度別農薬販売高対比（1－7月間）　　US$ 1.000

農　薬　別	1990年 (1－7月) a	1991年 (1－7月) b	1992年 (1－7月) c	増減 % b／a	c／b
殺　虫　剤	124.150	110.045	80.753	(-) 11,3	(-) 26,6
殺ダニ剤	47.062	29.035	36.414	(-) 43,3	25,4
殺　菌　剤	92.626	92.925	77.274	(-) 18,8	(-) 16,8
除　草　剤	295.137	240.260	229.776	(-) 11,5	(-) 4,4
そ　の　他	-	17.873	20.280	-	13,5
計	558.975	490.138	444.497	(-) 12,3	(-) 9,3

出所：ANDEF

91年度は、年間通じて天候が良く農薬を大量に消費する少数の作物に害虫や病害の発生が少なかったことが農薬の販売減少を決定的としたものであるが、このほか農薬市場の８％を占めるかんきつ部門の収益性が低下してオレンジ生産者の農薬使用量が大巾に落ちたことや、同じく農薬を大量に使用する大豆及び小麦の栽培面積が減少したことも農薬需要を落とした大きな理由の一つであった。この３作物の農薬販売に占めた比率は、1990年の46,4％より91年には、39,1％へと下降している。金額でみると91年の販売高387.0 百万ドルは前年の502.9 百万ドルを115,9 百万ドル落とすものであった。このほか砂糖キビ、じゃがいも及びトマトが合せて前年比5.2 百万ドルの販売減少となっている。これらに対し、売上げを伸したものとしては、とうもろこし（農業消費5,5 ％を占める）が10.7百万ドル、水稲（全体の6,6 ％）が5,2 百万ドルの増加であった。その他の作物の中で綿及びコーヒーは、大きな変化はなかった。

各農薬については、少数の作物に依存する形態がつよく、殺ダニ剤では販売高の90％がかんきつ類、除草剤では大豆が40％、砂糖キビ17％、水稲12％、とうもろこし９％、殺虫剤では、大豆24％、綿18％という状況である。これらに対し殺菌剤だけは多くの作物に比較的に平均して使用されており、小麦の使用比率のみが作物よりも高い割合いであった。

91年以降ＡＮＤＥＦでは、農薬分類に“その他”として発芽抑制剤、成長調整剤、貼着剤、植物ホルモン剤、成熟促進剤を加えているが、91年におけるこれらの販売高は、199 百万ドルで煙草葉においてその40％が使用され（40％）大豆、砂糖キビ、綿及びリンゴが合せて40％を消費している。

農薬部門の貿易収支については、91年に赤字残高の減少が観察された。しかし、輸入の減少率が輸出の減少率を上廻った90年の場合と異って91年には、輸入の減少（90年の326.8 百万ドルより91年の292.4 百万ドル）、輸出の増加（90年の100.9 百万ドルより91年の110.2 百万ドル）があった。これは、国内消費の減少による輸入需要の低下と、91年第４四半期以降に採用された現実的な為替レートの採用によって輸出が増加したことを示すものであるが、結果的に農薬の輸出入収支の赤字残高は、90年の225.9 百万ドルより92年には、182.2 百万ドルへと減少した。

表42　　ブラジルの農薬輸出入収支

(重　量)　　t

製品別	1987	1988	1989	1990	1991
輸　入					
殺虫剤	9.268	5.663	7.239	5.963	5.452
殺ダニ剤	1.723	2.513	2.551	2.123	429
殺菌剤	3.660	2.267	3.009	2.509	2.433
除草剤	4.105	4.782	5.338	5.555	11.160
原材料	53.447	47.158	47.452	31.683	38.265
その他	-	-	-	-	932
計	72.203	62.383	65.289	47.837	58.671
輸　出					
殺虫剤	1.306	1.688	980	1.301	1.254
殺ダニ剤	-	36	15	27	19
殺蟻剤	539	481	440	376	372
殺菌剤	7.979	4.861	3.167	2.140	2.661
除草剤	15.217	16.938	12.728	15.219	15.807
その他	-	-	-	-	134
計	25.041	24.004	17.330	19.063	20.247

(金　額)　　US$ 1.000

製品別	1987	1988	1989	1990	1991
輸　入					
殺虫剤	61.367	43.400	53.845	42.678	41.279
殺ダニ剤	11.673	25.505	40.411	40.215	14.743
殺菌剤	48.646	51.588	61.263	40.068	37.215
除草剤	41.797	50.970	65.297	100.265	94.875
原材料	128.759	139.947	154.047	103.574	98.540
その他	-	-	-	-	5.796
計	292.242	311.410	377.863	326.800	292.448
輸　出					
殺虫剤	11.923	11.863	7.021	7.213	9.820
殺ダニ剤	-	388	182	101	18
殺蟻剤	398	331	394	407	355
殺菌剤	27.169	20.139	28.247	22.330	16.288
除草剤	71.730	88.078	86.806	70.807	83.237
その他	-	-	-	-	524
計	111.220	120.799	122.652	100.858	110.242
収支残	(-)181.022	(-)190.611	(-)255.211	(-)225.942	(-)182.206

出所：ANDEF

種類別にみると1991年には、除草剤の輸入量が倍加したのに対し、その輸入金額は、逆に減少したのが記録されている。これは単位重量あたりコストの低い完成品の輸入が増加したことを示すものと解釈されている。

ブラジル、アルゼンチン、ウルグァイ及びパラグァイ４ヶ国で結成するメルコスール（南部共同市場）の中では、ブラジルとアルゼンチンがそれぞれ世界市場の5,9 %及び1,2 %を占める立場にあり、共同市場における農薬に関する協定は、植物の衛生委員会（ＣＯＳＡＶＥ）において取扱われている。現在まで協議された事項は、農薬の登録を規制する法律に関するものであるが、アルゼンチンが協定国内で販売されるためには、いづれか１国において登録されていれば足りると主張しているのに対し、ブラジルは共同市場加盟４ヶ国のいづれにおいても登録されていなければならず、そのためにはもっと新しいブラジルの法律に順ずるべきであるとの意見であり、妥協点は見出されていない。

1992年には、工場側と生産者側の要請に応じ農薬部門に対して二つの援護措置がとられた。農業融資に関しては農薬も生産者融資項目の中に含められるようになり、又租税に関しては、ＩＣＭＳ（商品流通サービス税）協定の改訂により、州間取引きにかゝわるＩＣＭＳの50%を減額することが決定された。

農薬の価格については、91年始めに価格の凍結後、中期よりやゝ緩和されて政府の監督下に置かれたあと10月になって始めて解除されている。このような政府の統制と全般的な需要減少のため91年７月～92年７月における農薬価格の変動率は1.219%に止まった。これは、この期間中のインフレ率（ＩＧＰ／ＦＶＧ総物価指数）962,9%を上廻っているものゝ、91年１月より92年７月にいたる１年半の価格推移1.709,0%は、この間のＩＧＰ1.882,2%を下廻る状況にあった。従って買手にとっては有利な条件下にあり、とくに中型農家の工場や販売店に対する取引きが増加した。

表４３　　農薬の平均価格推移　（サン・パウロ市）　　リットル

農薬別	重量単位	1991		1992		91、92年７月
		1月	7月	1月	7月	価格対比 (%)
殺ダニ剤						
KELTANE EC	½	-	5.100	16.667	96.000	1.782
NEOLON 500 EC	800 ml	5.701	7.720	33.692	99.507	1.188
OMITE	½	4.545	6.377	26.770	84.724	1.228
殺蟻剤						
MIREX	1/2 Kg	120	203	846	2.170	968
殺菌剤						
CERCOBIM M70 BR	5 Kg	23.730	32.360	147.509	356.421	1.001
DHITANE M-45	Kg	1.389	1.833	10.690	25.334	1.282
MANZATE BR	cx 25Kg	28.783	38.437	246.840	539.020	1.302
CXICLDECOBRE 50%	Kg	888	1.119	6.462	16.066	1.335
TILT 250 CE	½	11.061	14.350	70.245	212.460	1.380
除草剤						
PRIMEXTRA 500 FW	5½	8.226	12.330	51.555	161.488	1.209
ROUND UP	5½	16.409	23.088	116.920	260.717	1.029
TORDON 2.4 D	20½	61.300	90.497	421.316	1.103.149	1.118
TRIFURALINA	5½	9.204	13.900	64.717	165.034	1.087
殺虫剤						
AMBUSH 500 CE	½	14.663	23.086	97.238	285.648	1.137
DECIS	½	6.359	8.645	46.366	11.635	1.187
FURADAN 5G	10½	6.202	8.906	37.227	100.716	1.030
NUVACRON 400	½	2.192	2.730	14.414	40.514	1.384
スプレー油						
TRIONA B	20½	4.586	6.900	32.603	95.987	1.291

出所：ＩＥＡ

2．2．2 肥料

サルネイ政府がクルザード・プランに失敗した1986年よりコーロル政権に移行後の1991年にかけてブラジルの経済は、極度に悪化しその間昂進したインフレを抑制する手段として数回のショック療法が実施されたが、それらは肥料部門の需要面、供給面に少なからぬインパクトを与えた。

国内の肥料消費量は、1987年の9.4 百万トンより翌88年に10.1百万トンへと７％の増加をみたあと89年以降再び減少し、91年も8.5 百万トンに止まり87年のレベルに戻っていない。この間88年にみられた一時的な肥料消費の増大も国内事情によるものでなく、一部農産物の国際価格上昇に影響された外的要因によるものであった。

表４４　　肥料の消費量及び在庫量　　1.000 t

区　　分		1987	1988	1989	1990	1991
消費在庫（工場）	A	1.295	2.066	1.839	1.205	1.120
国内生産量	B	6.314	6.094	5.614	5.393	5.592
輸入量	C	3.821	3.179	2.474	2.930	3.294
推定消費量	(B＋C)	10.135	9.273	8.088	8.323	8.886
輸出量	D	64	87	180	249	274
損失ほか	E	345	352	217	63	(-) 1
供給量計	F	11.711	11.604	9.964	9.342	9.731
期末在庫（工場）	G	2.066	1.839	1.205	1.120	1.238
農家への引渡量	H	9.645	9.765	8.759	8.222	8.493
農家の期首在庫	I	600	850	530	270	167
農家の期末在庫	J	850	530	270	167	150
実際消費量（H＋I－J）		9.395	10.085	9.019	8.325	8.510

出所：ANDA

この間1989年にサンマー・プラン、1990年には、コーロル政府最初のコーロル・プランの二つの経済政策が打ち出されたが、中でも90年のコーロル・プランは、流動資金の凍結という苛酷な措置であったゝめ、国内経済の各分野に影響を与え、中でも農業部門は、大きな被害を受け、それに附随して肥料部門も打撃を蒙むることゝなった。90、91年にかけて肥料消費が急激に減少したのは、この結果にもとづくものである。

このような肥料消費の大巾な減少は、直接農業生産に反影し、とくに大豆やとうもろこしなど国の農業生産量を支配する穀類の生産性を低下させ、国全体の収穫量を落す原因を作った。1991年には、前年比1,2 ％増の8.5 百万トンに戻ったものゝ88年と比較すると依然として15,6％の減少となっている。

石炭に関しては、販売状況は更に悪く、1989年から1991年にかけた販売量は、生産能力をはるかに下廻るものであった。全国肥料及び石灰普及協会（ANDA）によると国内の石灰生産能力は、年間約50百万トンであるが、これに対する国内需要は、1988年の15.1百万トンより90年には、9.5 百万トン、91年に入ると更に下降して8.6 百万トンに落ちており、施設の遊休率は、83,0％に達しているという。国内土壌が高い酸性を示しているところから、このような状態は、将来の農業生産に反映するものと優慮されている。

中央・南部地方における肥料価格と農産物価格の関係については、1991年以降二つの相反する状況が観察される。すなわち1990年と対比すると91年の上半期には、生産者に有利な交換関係を保ったが、下半期に入るとこの状態は、逆転し、綿、コーヒー、フェイジョン及び小麦の生産者にとって肥料を購入するための購買力が低下したのが明らかとなっている。下半期における購買力の低下は、一方において生産者の平均受取価格が低下したことゝ、他方肥料価格が上半期に比して上昇したことを理由とするものであった。わずかに大豆とオレンジのみが、10月以降国際価格の回復によって購買力を維持した部門であった。このように91年は、上半期と下半期で大きな変化はあったものゝ年間を通じた生産者の購買力は、コーヒーとオレンジを除いて90年に比して良好なものであった。

表45　　肥料1トンを購入するために必要とした農産物の量（重量）

年別	綿 (15Kg入)	米 (60Kg)	砂糖キビ (t)	みかん (箱)	とうもろこし (60Kg)	大豆 (60Kg)	小麦 (60Kg)	コーヒー (60Kg)
1987	38,8	30,5	23,1	68,3	29,0	23,5	23,2	3,2
88	46,8	24,2	25,1	44,5	22,7	17,5	25,9	3,3
89	50,5	31,8	37,5	60,1	40,1	24,8	33,3	3,6
90	47,0	26,1	28,7	96,1	37,7	31,8	39,2	3,7
91	40,5	17,7	24,5	101,3	31,2	22,0	33,5	3,8
92	55,6	28,3	28,8	79,7	38,4	23,7	34,7	5,0
				（指　数）				
1987	100	100	100	100	100	100	100	100
88	121	79	110	65	78	74	112	103
89	130	104	162	88	138	106	144	113
90	121	86	124	141	130	135	169	116
91	96	58	106	148	108	94	144	119
92	143	93	125	117	132	101	150	156

出所：ANDA　　注：92年は1－7月の平均

作物別の肥料消費量については、1990年の場合と同様に砂糖キビにおける消費量かもっとも大きく、1.740千トンに達しており、91年における全肥料消費量は20,4%を占めた。前年と対比するとほとんど全作物にわたり、消費量の増加が記録されている。すなわち綿（14,8%）、落花生（7,7 %）、米（12,5%）、砂糖キビ（4,2 %）、フェイジョン（4,2 %）、とうもろこし（15,4%）、及び大豆（6,6 %）において肥料消費の増加があり、逆に消費を落としたものとしては、コーヒー（-6,9%）、オレンジ（-21,2 %）及び小麦（-39,2 %）があげられる。

表46　　作物別肥料消費量（合計量）　　1.000 t

作物別	1987	1988	1989	1990	1991
砂糖キビ	1.620	1.710	1.705	1.670	1.740
とうもろこし	1.340	1.380	1.339	1.300	1.500
大豆	1.700	2.072	1.637	1.370	1.460
フェイジョン	435	506	568	528	550
米	850	797	564	480	540
コーヒー	809	918	619	580	540
綿（草綿）	300	284	316	270	310
小麦	750	707	629	510	310
オレンジ	290	342	394	368	290
煙草葉	220	255	243	230	250
じゃがいも	250	228	218	226	240
バナナ	130	134	119	115	120
牧草	75	102	94	100	110
野菜類	80	87	76	82	80
マンジョカ	85	89	76	78	76
トマト	78	89	80	74	62

植　　林	27	59	58	47	50
果 実 類	57	45	43	47	44
そ の 他	42	42	49	45	42
コ コ ア	100	81	59	67	40
玉 ね ぎ	26	29	28	30	30
からす麦	19	19	16	16	20
ソルガム	28	28	18	18	18
大　　麦	18	20	19	18	15
パインアップル	20	18	14	14	14
落 花 生	18	16	13	13	14
にんにく	12	13	12	13	13
ヒ　　マ	15	15	13	15	12
計	9.395	10.085	9.019	8.325	8.510

出所：ANDA

表47　　作物別肥料消費量（1haあたり）　　Kg／ha

作 物 別	1987	1988	1989	1990	1991
じゃがいも	1.429	1.434	1.371	1.395	1.472
ト マ ト	1.238	1.348	1.311	1.233	1.192
煙 草 葉	753	870	884	804	729
にんにく	800	929	706	684	684
パインアップル	435	486	412	412	400
玉 ね ぎ	371	387	373	390	370
砂糖キビ	325	348	330	328	347
オレンジ	354	387	432	372	295
バ ナ ナ	275	257	242	236	232
野 菜 類	222	235	204	222	216
コーヒー	275	302	213	210	207
綿　(草 綿)	162	183	210	182	186
大　　麦	176	187	168	188	155
大　　豆	160	169	141	142	155
小　　麦	216	196	190	152	151
落 花 生	173	180	157	148	146
果 実 類	202	158	151	165	137
米	140	145	131	114	112
ソルガム	127	159	133	97	110
とうもろこし	100	105	111	95	106
フェイジョン	71	91	106	92	96
からす麦	133	91	81	61	73
コ コ ア	150	116	88	100	59
ヒ　　マ	47	55	45	61	56
マンジョカ	48	47	39	40	40

植　　林	28	50	45	38	38
そ の 他	21	23	27	27	23
牧　　草	6	8	7	8	11
計	132	141	133	122	131

出所：ANDA

全国の肥料配布量については、91年には、前年の8.2 百万トンを3,3 %上廻る8.5 百万トンが記録されている。配布量と消費量の差すなわち在庫量については、1990年に103 千トンと記録されているが、1991年は、17千トンに落ちており、農家の在庫量が減少したことを示している。州別の配布量については、全州にわたって配布量の増加が観察される。ANDAのデータによると、州別の配布量とその全国比率は，中央部において6.2 百万トン（73,2%）、南部1,5 百万トン（17,2%）、東北部80,0千トン（9,4 %）、北部17千トン（0,2 %）であった。国内全州の中でもっとも多くの肥料を消費した州は、サン・パウロ州の2.6 百万トン（30,5%）、これに次いでリオ・グランデ・ド・スール州の1,2 百万トン（13,8%）、パラナ州の1.1 百万トン（12,8%）が主要消費州である。

表4 8　　州別肥料配布量　　1.000 t

州　　別	1989	1990	1991	1992（1－5月）
北部地方	26,0	15,9	17,4	5,4
東北地方				
バ イ ア	240,9	188,8	298,0	30,7
アラゴアス	166,6	153,7	198,2	48,5
ペルナンブコ	132,9	135,9	160,3	68,7
パライーバ	50,7	33,2	48,5	17,9
リオ・グランデ・ド・ノルテ	24,4	23,1	28,0	9,0
マラニヨン	19,8	18,1	24,0	2,0
セルジッペ	18,1	21,3	19,8	5,5
そ の 他	19,6	19,5	23,3	4,2
小 計	673,0	593,6	800,1	186,5
中 央 部				
サン・パウロ	2.638,5	2.584,9	2.593,1	608,5
パ ラ ナ	1.230,1	1.088,7	1.070,7	248,8
ミナス・ジェライス	960,6	979,1	891,5	128,7
ゴ ヤ ス	737,1	717,4	706,6	95,7
マット・グロッソ	540,0	397,4	501,7	57,2
マット・グロッソ・ド・スール	389,2	301,4	317,7	69,2
そ の 他	164,3	127,9	113,7	23,8
小 計	6.659,8	6.196,8	6.215,0	1.231,9
南部地方				
リオ・グランデ・ド・スール	1.140,9	1.149,9	1.172,3	228,2
サンタ・カタリーナ	259,1	266,2	288,2	85,4
小 計	1.400,0	1.416,1	1.460,5	313,6
全 国 計	8.758,8	8.222,5	8.493,0	1.737,5

出所：SIACESP、ANDA、他

国内の肥料生産は、1987年の6.3 百万トンより90年の5.4 百万トンにいたる間継続した減少を続けた。91年は、やや回復し前年を3,7 %上廻る5.6 百万トンの生産を行ったものゝ、87年の生産レベルには遠く及んでいない。

肥料原料の生産については、90−91年間に明らかな傾向はなく、燐酸及び硫酸の生産が増加したのに対し、アンモニア及び燐石の生産は減少を続けた。

表49　肥料及び原材料の国内生産推移　1.000 t

品目別	1987	1988	1989	1990	1991
原材料					
アンモニア	959,9	946,7	978,8	971,2	829,2
燐酸岩	4.263,5	4.297,6	3.245,1	2.676,3	2.429,9
燐酸	1.245,2	4.368,4	1.264,4	1.026,8	1.065,3
硫酸	2.723,9	2.912,3	2.695,7	2.341,3	2.392,8
肥料					
硫安	138,6	161,8	191,9	156,7	141,1
尿素	995,4	952,2	1.048,4	1.076,4	1.011,6
ニトロカルシューム	147,6	129,1	167,6	144,6	141,5
硝酸アンモニア	196,8	173,3	205,1	190,6	198,6
DAP 剤	197,5	184,4	148,7	127,7	130,2
MAP 剤	586,9	541,5	406,2	436,4	419,4
SUDERFOSFATO	2.376,2	2.258,1	1.934,6	1.981,8	2.118,2
過燐酸	4,4	6,9	10,3	0,6	0
重過燐酸	862,3	956,3	753,3	594,5	584,3
TERMOFOSFATO	183,5	165,7	145,6	107,2	96,7
TOSTATO ACIDULADO	250,5	96,0	54,9	105,5	92,7
塩化カリ	62,2	92,9	182,4	113,5	169,6
配合肥料	311,7	376,8	365,0	358,0	488,6
合計	6.313,4	6,094,9	5.613,9	5.393,3	5.592,5

出所：ANDA、他

国際市場における肥料価格は、92年7月の価格を91年7月と比較すると全面的に下降した。中でも米国のDAP剤における(-)21,6 %、同じく米国の尿素における(-)16,1 %の下降が特筆される。このような肥料価格及び原料価格の下降は、世界的なリセッション下でこれらの生産資材に対する需要が大巾に減少したことを反映したものであり、又、ロシアがその経済危機の中で外貨獲得の必要から肥料の輸出を増大したのも国際価格低下の一因とされている。

表50　主要肥料及び原材料の国際価格（各年6月時点）　US$／t

種類	1988	1989	1990	1991	1992
硫安					
米国	50 - 57	62 - 67	62 - 67	40 - 50	40 - 48
西ヨーロッパ	50 - 55	62 - 64	60 - 64	30 - 45	31 - 48
尿素					
米国	120 - 125	95 - 100	118 - 125	150 - 155	125 - 130
塩化カリ					

西ヨーロッパ	86 - 89	98 - 99	99 - 101	99 - 105	102 - 104
カ ナ ダ	82 - 87	98 - 99	90 - 97	111 - 113	112 - 114
燐 酸(100%P2 O5)					
米 国	320 - 323	332 - 342	277 - 287	290 - 295	288 - 299
北アフリカ	295 - 310	415 - 425	311 - 312	310 - 312	309 - 314
DAP 剤					
米 国	186 - 188	162 - 164	175 - 177	182 - 185	143 - 145
北アフリカ	205 - 210	225 - 238	170 - 172	205 - 210	170 - 185
重過燐酸					
米 国	151 - 154	138 - 143	120 - 125	123 - 130	121 - 124
北アフリカ	162 - 165	158 - 160	145 - 150	153 - 160	144 - 149

出所：SIACESP

1991年以降各州政府は、肥料消費の増加を促す手段として肥料の販売にかゝわる租税の軽減を図る措置をとっている。サン・パウロ州の場合を例にとると、91年4月24日付の州条令第33.194号によって肥料及び石灰にかゝわるICMS（商品流通サービス税）の延べ払いを認め、又州間取引きに対しては、原料の場合50%、アンモニア及び肥料の場合25%の減税を行っている。

サン・パウロ市場における92年上半期の肥料及び石灰の価格は、前年同期と比較して殆んどの製品について値下りが観察された。中でも配合肥料の02-30-10、04-14-08、20-05-20及び硫安では、実質価格の(-)2,0%～(-)11,0 %の値下りであった。塩化カリと石灰だけは、それぞれ2,3 %及び6,0 %の値上りを示している。

表51　肥料価格の推移（サン・パウロ市）

種類別 / 月別	02 - 30 - 10		04 - 14 - 08	
	CR／t	指 数	CR／t	指 数
1990年 1月	5.454	100	3.950	100
2月	8.129	87	6.282	93
3月	14.420	85	11.611	94
4月	17.453	92	11.855	87
5月	17.453	85	11.855	79
6月	18.215	81	13.833	85
7月	21.239	84	17.266	94
8月	25.924	90	21.193	102
9月	27.407	86	22.945	99
10月	31.783	87	25.629	97
11月	40.995	95	30.981	100
12月	47.062	94	38.305	106
1991年 1月	58.555	98	46.488	107
2月	58.555	81	46.488	88
3月	75.730	97	53.481	95
4月	72.726	86	49.620	81
5月	74.978	83	55.887	85
6月	74.978	76	57.918	81

7月	82.684	74	60.326	74
8月	88.602	69	72.341	77
9月	114.614	76	83.914	77
10月	132.962	70	108.673	79
11月	156.746	66	140.232	81
12月	188.096	65	172.121	82
1992年 1月	272.131	74	239.939	90
2月	382.247	83	293.702	88
3月	418.502	75	326.755	81
4月	495.942	75	414.404	87
5月	628.097	78	494.785	85
6月	742.885	76	620.278	88

出所：ＩＥＡ

２．２．３　農業機械

トラクターを中心とする農業機械の販売数は、80年代の後半より90年代の当初にかけて減少を続けており、目下回復の兆はない。この間1986年だけは当時サルネイ政府が打出したクルザード・プランによる一時インフレの終息によって機械類や土地への投資が復活したゝめ、農地価格の高騰と共に農業機械の販売が増加したが、これも全く一時的なもので同経済政策が失敗に帰した86年末より再燃したインフレと共に農業機械の販売も再び下降し、以後回復することなく今日に及んでいる。

このような経済環境による影響のほかトラクターの場合、最近数年間にみられる販売の減少は、トラクター価格自体の上昇にも影響したものであった。すなわち、1986年まで比較的に安定していた価格は、以後大巾に改訂され1990年にいたって実質的に100 %の値上りに達したあと、91年に再び60%の値下げが行われたが、この価格上昇は、生産者の購買力をはるかに上廻るものとなり、販売は急激に落ちることゝなった。

表５２　　トラクター及び農業用機械の生産台数　　台

年　度	耕　運　機	ブルトーザー	車輪トラクター	農業用機械類
１９８６	7.128	2.409	51.895	61.432
８７	4.313	2.677	47.758	54.748
８８	2.026	2.818	39.958	44.802
８９	3.007	2.038	32.530	37.575
９０	2.519	1.743	25.104	29.366
９１	1.886	1.068	16.478	19.432
92 (1-7月)	1.227	553	10.582	12.362

出所：ＡＮＦＡＶＥＡ

トラクター価格の上昇に反して農産物価格の停滞もしくは下降のためトラクターと農産物の価格関係は、大半の作物において年々悪化しており、農業者の購買力低下が明らかな形で示されている。１例として綿の場合をとると61CVのトラクタ１台を購入するのに1987年には、2.447 アローバ（15Kg）の代金で足りたものが、92年上半期には 7.615 アローバを販売せねば購入出来ない状況にありこの間、購買力が60%以上低下している。フェイジョンの場合は更に悪く、87年に247俵（60Kg入）でトラクター１台（61CV）が購入出来たものが、92年上半期になると実にその5,2倍にあたる1.445 俵を必要とする状況にあった。

表５３　　トラクター（61CV）１台を購入するために必要とした作物の量

作物別 / 年度別	綿 (15Kg)	米 (60Kg)	じゃがいも (60Kg)	コーヒー (40Kg)	砂糖キビ (t)	とうもろこし (60Kg)	大豆 (60Kg)
１９８７	2.447	1.719	683	596	1.136	2.679	1.199
８８	4.189	2.020	1.820	1.085	2.540	3.420	1.354
８９	3.477	2.001	721	792	2.662	3.139	2.004
９０	5.924	3.159	1.905	1.689	5.111	4.782	3.816
９１	3.777	1.477	854	1.197	2.311	3.191	2.262
９２	7.615	3.521	3.825	2.339	3.187	5.579	3.073
				(指　数)			
１９８７	100	100	100	100	100	100	100
８８	171	118	266	182	224	128	113
８９	142	116	105	133	234	117	167
９０	242	184	279	283	450	178	318
９１	154	86	125	201	203	119	189
９２	311	205	560	392	281	208	256

出所：ＩＥＡ

このような価格関係の悪化は、トラクターの国内販売に反映し91年には、前年を(-)34,3 %1986年の51.895台と比較すると(-)68,2 %に及ぶ減少であった。

1992年における農業機械の販売も良好なものではなく、１－６月間に販売された17.723台は、前年同期の19.624台を下廻っており、機種別にみても 100～199 CVのトラクターと収機械のみが前年比それぞれ32,7%及び23,8%の増加を記録した以外は、すべての機種について販売の減少がみられている。

このような国内販売の不振は、一部輸出の増加によってカバーされてきた。トラクターの販売総数に占める輸出の割合いは、86年の10,5%より88年には23,0%に達したあと再び減少して90年には、11,5%まで落ちているが91年は、18,5%に回復、92年上半期は、過去６ヶ年間最高の28,0%に伸びており、2.957 台が海外に販売されている。

農業問題の専門家によると主要20作物によって得られる収入は、86年度において360 億ドルであったが91年には、これが190 億ドルに減少していること、及び1986年より88年にかけては年間約20億ドルの資金が農業部門に投資されたが、現在農業機械に対する唯一の融資原であるＦＩＮＡＭＥ資金は僅か５億ドルに過ぎず、これらが重なって農業機械の販売を落しているものであると分析している。

表５４　　トラクター及び農業用機械類の販売台数

（耕　運　機）

年　度	国内販売	輸　出	計
１９８６年	6.588	467	7.025
８７	3.593	641	4.234
８８	1.859	357	2.216
８９	2.617	223	2.840
９０	1.911	551	2.462
９１	1.983	174	2.157
92 (1-7月)	1.127	81	1.208

(ブルトーザー)

年　度	国内販売	輸　出	計
1986年	2.245	200	2.445
87	2.010	599	2.609
88	1.452	946	2.398
89	1.492	888	2.384
90	1.134	539	1.673
91	589	365	954
92 (1-7月)	319	260	579

(車輪トラクター)

年　度	国内販売	輸　出	計
1986年	46.717	5.470	52.187
87	39.802	6.658	46.460
88	30.613	9.300	40.363
89	26.958	6.347	33.305
90	22.010	2.862	24.872
91	13.896	3.171	17.067
92 (1-7月)	7.575	2.957	10.532

(合　計)

年　度	国内販売	輸　出	計
1986年	55.520	6.137	61.657
87	45.405	7.898	53.303
88	33.924	10.603	44.977
89	31.071	7.458	38.529
90	25.055	3.952	29.007
91	16.468	3.710	20.178
92 (1-7月)	9.021	3.298	12.319

出所：ANFAVEA

2．2．4　種　子

ブラジル種子生産者協会（ABRASEM）の情報によると1992／93農年の改良種子供給量は、こゝ3ヶ年間、減少傾向を辿っており、88／89農年に達した2.295千トンを最高としたあと91／92農年には、1.515千トンに減少92／93農年もこの程度の生産量であったものと推定されている。

表55　　ブラジルの改良種子生産推移　　1.000 t

年　度	綿	米	ﾌｪｲｼﾞｮﾝ	ﾄｳﾓﾛｺｼ	大　豆	小　麦	計
1987／88	44,0	211,5	21,9	118,5	1.014,2	671,4	2.081,5
88／89	44,9	220,2	23,0	172,6	1.192,1	642,4	2.295,2
89／90	41,5	108,3	18,6	152,6	983,0	474,3	1.778,3
90／91	43,7	127,9	29,1	140,3	853,0	359,1	1.553,1
91／92	44,0	124,5	29,0	142,0	792,6	383,0	1.515,1

(サン・パウロ州91/92)	12,0	4,0	4,8	33,5	25,0	5,0	84,3
(サン・パウロ州の割合)	27 %	3 %	17 %	24 %	3 %	1 %	5,6%

出所：ABRASEM、OSMM、CATI

サン・パウロ州農務局技術援助統轄局（CATI）種子種苗部（DSMM）によると、サン・パウロ州内の改良種子需給は、大きな変化はなく作付面積が前年並みの場合種子の供給は、水稲、大豆を除いて特に支障を来たすことはなかろうとの見通しである。又とうもろこしについては、可成りの余剰が生じる見通しとなっている。

表56　　サン・パウロ州の改良種子需給予想　92／93

作物別	92/93 年作付面積1.000 ha	改良種子の利用率 %	1haあたりの量 Kg	需要量 t	州内供給量 t	過不足 t
綿	219,0	90	43	8.475,3	12.000	3.524,7
落花生	63,6	70	140	6.232,8	8.000	1.767,2
水稲	23,7	75	100	1.775,3	1.200	(-) 575,0
陸稲	165,8	30	30	1.492,2	2.800	1.308,8
フェイジョン	328,9	20	50	3.289,5	4.800	1.510,5
とうもろこし	1.025,2	70	20	14.352,8	33.500	19.147,2
大豆	465,5	90	90	37.705,5	25.000	(-)2.705,5

出所：DSMM／CATI

サン・パウロにおける92／93農年の改良種子部門は、次の状況にあった。

綿　：　需要予想量8.5 千トンに対し生産量は12千トンと見積られており、3.5 千トンの余剰を生じている。但し、収穫期の降雨により品質を落しているため、発芽率に問題があり、不良品を除く場合、需給はバランスする予想である。

落花生：　生産量が8千トンと予想されているのに対し需要量は6千トンであり、栽培面積が急増しない限り、余剰を生じる見通しである。

水　稲：　州内の水稲栽培面積は、小さい（23.7千ヘクタール）が種子の自給態勢にはない。92／93農年にも約600トン不足する見込みであり、他州より補給が行われる。

陸　稲：　州内の栽培面積は、相当増加する見通しであるが州内で生産される改良種子は、その需要に応じた他余剰を生じる予想である。

フェイジョン：　州内の改良種子需給は、ほゞ均衡した状態にあり、特に栽培面積が増加しない限り1.500 トン程度の余剰を残す見通しとなっている。

とうもろこし：　サン・パウロ州は、伝統的にとうもろこし改良種子の大生産地で他州への供給拠点としての役割も果している。92／93農年の供給量は、33.5千トンと推定されており、州内需要の14.5千トンを賄ったあと19千トンの余剰が生じる予定である。サン・パウロ州種子種苗生産協会（APPS）によると91／92農年の生産量は、例年の平均値を下廻った（39千トン）が州内供給は支障はなく行われた。91／92農年に種子生産が減少したのは、穀類としてのとうもろこし価格との価格関係が悪かったゝめといわれている。91／92農年における価格関係は、穀類1に対し種子16,5の割合であった。92／93農年は、これが1：17,2に向上している。

大　豆：　1992年の大豆種子市場は、穀類価格の上昇を反映して需要の増加がみられた。APPSによると州内の大豆種子生産量（25千トン）は、作付前に全量販売済みで、不足の12.7千トンは、例年サン・パウロ州への大豆種子供給を行うパラナ州に余剰がないため、余剰品を持つリオ・グランデ・ド・スール州よりの供給に依存することゝなった。穀類価格と種子価格の関係は次表の通りである。

表57　　サン・パウロ州における穀類と種子の価格関係　　CR／Kg

作物別	種子価格		穀類価格	比率 (%)	
	農務局 (A)	民間会社 (B)	(C)	A／C	B／C
綿	2.200	-	1.411	1,56	-
落花生	6.054	6.000	2.091	2,89	2,87
水稲	2.659	-	1.000	2,66	-
陸稲	2.659	2.575	833	3,19	3,09
フェイジョン	3.000	4.050	2.196	1,37	1,84
とうもろこし(ハイブリッド)	4.965	8.750	507	9,78	17,24
〃 (普通種)	3.071	5.025	507	6,05	9,90
大豆	1.824	1.900	864	2,11	2.20

出所：DSMM／CATI　　注) 92年5月の価格

3　主要農産物の生産流通状況

3．1　穀　類

3．1．1　とうもろこし

イ）　生産

表58　　とうもろこし：1991年の生産実績

州　　別	作付面積　1.000 ha	収穫面積　1.000 ha	生産量　1.000 t	単　収　Kg／ha
パ　ラ　ナ	2.441,7	2.358,8	4.827,1	2.046
サン・パウロ	1.448,0	1.448,0	4.070,8	2.811
ミナス・ジェライス	1.580,3	1.570,1	3.816,7	2.431
ゴ　ヤ　ス	884,6	881.1	2.886,4	3.276
リオ・グランデ・ド・スール	1.873,4	1.808,4	2.053,8	1.136
サンタ・カタリーナ	1.055,1	962,7	1.523,6	1.583
マット・グロッソ・ド・スール	363,4	346,6	933,3	2.693
マット・グロッソ	255,9	253,0	669,7	2.647
セ　ア　ラ	642,5	596,9	372,1	623
ピアウイ	418,3	418,3	336,6	805
マラニョン	554,4	554,4	332,5	600
そ　の　他	2.126,1	1.911,5	2.116,4	
全　国　計	13.646,7	13.109,8	23,939,0	1.826

出所：ＩＢＧＥ

表59　　とうもろこし：1992年の生産状況（92年10月調査）

州　　別	作付面積　1.000 ha	収穫面積　1.000 ha	生産量　1.000 t	単　収　Kg／ha
パ　ラ　ナ	2.610,0	2.610,0	7.370,0	2.824
リオ・グランデ・ド・スール	2.008,8	2.007,3	5.547,0	2.763
サン・パウロ	1.556,2	1.566,2	4.074,8	2.602
ミナス・ジェライス	1.582,9	1.526,8	3.762,9	2.465
サンタ・カタリーナ	1.087,3	1.078,2	3.261,0	3.025
ゴ　ヤ　ス	804,8	799,6	2.777,3	3.473
マット・グロッソ・ド・スール	362,8	340,7	854,5	2.508
マット・グロッソ	313,2	290,3	763,9	2.632
バ　イ　ア	528,6	487,6	408,5	838
エスピリト・サント	120,2	120,2	269,1	2.239
ロンドニア	150,8	150,8	266,5	1.767
そ　の　他	2.838,4	2.488,7	1.281,8	
全　国　計	13.973,8	13.466,4	30.637,3	2.275

出所：ＩＢＧＥ

1992年10月にＩＢＧＥ（ブラジル地理統計院）が発表した生産統計によると91年に行われた90／91農年のとうもろこし生産は、前年を27,3％上廻る13.109.8千ヘクタールの面積で行われ、23.939千トンの収穫をあげた。この生産量は、前年を12,2％の増加に止まるもので前年に対する反収の低が示されている。反収の低下は、主に南部地方における乾燥の被害にもとづくものでリオ・グランデ・ド・スール州では、前年の反収2.404 Kg／haを1.136 Kgへと半減したゝめであった。

これに続いて92年に行われた91／92農年のとうもろこし作は、面積において前年をわずか2,7 ％増加する13.466千ヘクタールの規模で行われたが、天候に恵まれて全国の平均反収が24,5％向上し、中でも主要生産地帯のパラナ州において38％、前年乾燥の被害によって生産を激減していたリオ・グランデ・ド・スール州では、143 ％の増加で生産態勢を回復すると共に、この二大生産地帯が過去５ヶ年間最高の反収を記録したことから全国生産量は、飛躍的に伸びて30百万トン台に達しており、有史以来最高の記録を作っている。この生産量は、91／92農年の穀類（穀物及び油脂原料作物）生産量68.2百万トンの45％に相当する量である。この中、約98％が雨期作残りが第２収穫となっている。又全国生産量の93％は、中央・南部地方の生産にもとづくもので北部・東北地方の生産比率は、僅少である。

表６０　　とうもろこし：過去５ヶ年間の生産推移　　1.000 t

州　　別	１９８８	１９８９	１９９０	１９９１	１９９２
パ ラ ナ	5.508,1	5.268,0	5.160,8	4.827,1	7.370,0
リオ・グランデ・ド・スール	2.537,0	3.583,8	3.957,4	2.053,8	5.547,0
サン・パウロ	3.684,0	3.756,0	2.766,0	4.070,8	4.074,8
ミナス・ジェライス	3.288,8	3.333,3	2.272,8	3.816,7	3.762,9
サンタ・カタリーナ	2.371,2	2.376,0	2.674,4	1.523,6	3.261,0
ゴ ヤ ス	2.990,0	3.693,6	1.848,4	2.886,4	2.777,3
そ の 他	4.368,9	4.562,9	2.661,4	4.760,6	3.844,3
全 国 計	24.748,0	26.572,6	21.341,2	23.939,0	30.637,3
収穫面積 1.000 ha	13.169,0	12.931,8	11.390,7	13.109,8	13.466,4

出所：ＩＢＧＥ

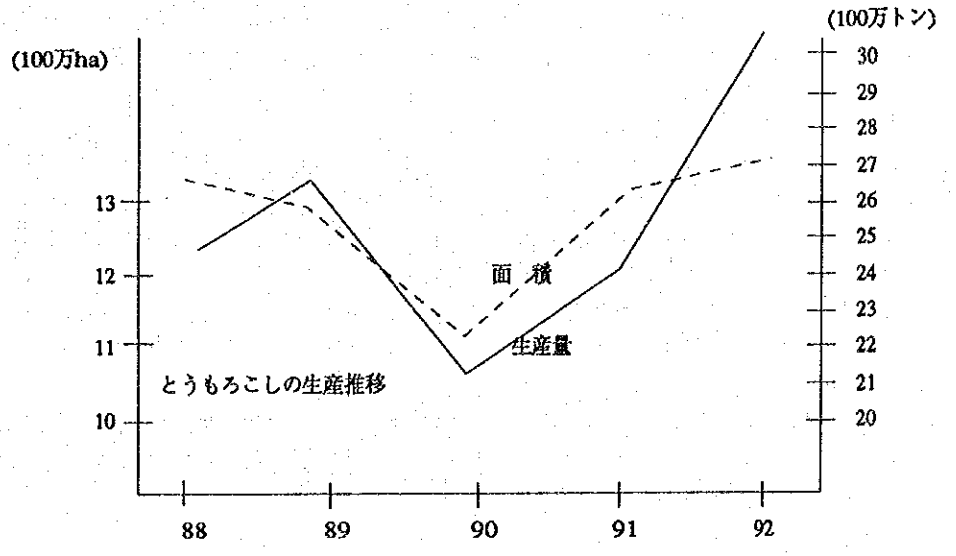


表61　　とうもろこし：主要生産地の反収　　Kg／ha

州　　別	1988	1989	1990	1991	1992
パラナ	2.454	2.494	2.481	2.046	2.824
リオ・グランデ・ド・スール	1.567	2.279	2.404	1.136	2.763
サン・パウロ	2.866	2.832	2.403	2.811	2.602
ミナス・ジェライス	2.122	2.249	1.611	2.431	2.465
サンタ・カタリーナ	2.406	2.412	2.644	1.583	3.025
ゴヤス	2.688	3.225	2.166	3.276	3.374
全国平均	1.879	2.055	1.874	1.826	2.275

出所：IBGE

ロ）　国際市場

米国農務省（USDA）の発表によると92／93農年における世界のとうもろこし生産量は、前年を6,2％上廻る515.6百万トンに達したものと推定されている。この世界生産の増加は全面的に米国の生産増加（前年比17,2％増の222.6百万トン）にもとづくもので、他の生産国では、前年をやゝ下廻る293.0百万トンに止まっている。

米国を除く生産国の中では南アフリカ連邦における生産の回復が特筆される。同国のとうもろこし生産は、90／91農年に極度の乾燥により僅か2.6百万トンに落ちていたが91／92農年は、天候が順調に推移したゝめ、8百万トンの生産を期待する状況にある。この他、大巾な生産増加が見られるのは、旧ソ連邦ブロックにおける12.1百万トンで前年を34,4％増加したものといわれている。

91／92農年における世界のとうもろこし貿易は、68.9百万トンで前年を5,2％上廻った。世界最大の輸出国である米国では、前年の43.8百万トンより91年は、40.4百万トンへと減少したが、その他の国の輸出が合せて21.7百万トンより28,5百万トンへと飛躍したゝめである。USDAの推定によると92／93農年は、旧ソ連邦における輸入需要の減少（91／92農年の11.0百万トンより92／93農年の6.4百万トン）、牛肉輸入の自由化に伴なう日本のとうもろこし需要の安定、世界的に家畜1頭当り飼育消費量の減少等を理由として世界のとうもろこし貿易量は、前年比(-)7,2％の63.9百万トンに減少するものと推定している。

92／93農年末における世界の在庫は、生産の増加に対する消費の減少によって前年を22,4％増加する95.5百万トンに達する見込みである。この中、その67,2％を占める45.8百万トンは、米国の在庫量である。このような世界在庫の増加は価格に影響しており、米国の生産者受取価格は、ブッセル当りUS$2,40（トン当りUS$94,48）より、92／93農年は、US$2,10（トン当りUS$82,67）に落ちる見通しである。

91／92農年における販売は、国内供給量の増大、最低価格保証のための資金の不足、金利の上昇等生産者にとって好ましい状況ではなかった。このため在庫の形成が妨げられ不利な販売を余儀なくした。価格動向は、最近数年間と異り季節的価格変動のパターンに戻っており、上半期において価格の低下、下半期において価格の上昇があった。実質価格でみると3－6月中、販売量が最大の時の価格は、前年同期と比較して(-)9,5％下落であったが、若し政府による最低価格保証が行われていればこれ程の下落はなかったものといわれている。サン・パウロ州内における市場価格と最低価格の割合いは、89／90、90／91農年においてそれぞれ1,35及び1,33であったものが92年は、0,94％に下っており、最低価格を割った販売が行われたことを示している。価格の下落巾は、リオ・グランデ・ド・スール州、パラナ州及びゴヤス州において大きかった。

生産者が要求してきたAGF（最低価格による政府の買上げ）及びEGF（生産物の販売融資）は、6月になってようやく解除され、市場への供給過剰の状態を緩和し、端境期に備えた貯蔵を可能とした。その結果は、価格に反映し、中央・南部地方における価格は、実質的な上昇をみている。

表６２　　とうもろこし：生産者受取価格（サン・パウロ州）

1992年７月をベースとした実質価格　　CR／60Kg

月　別	１９８８	８９	９０	９１	９２
1月	34.174	39.740	24.133	28.860	32.852
2月	31.533	35.868	19.583	24.656	27.344
3月	27.206	32.151	18.297	21.303	22.151
4月	27.339	29.474	18.140	23.500	21.630
5月	29.437	32.983	23.785	25.638	21.141
6月	28.446	35.105	24.339	23.557	20.526
7月	29.791	24.348	25.561	22.986	22.273
8月	34.370	21.006	29.477	26.652	…
9月	34.661	24.939	28.365	25.645	…
10月	40.135	21.802	27.249	29.894	…
11月	43.223	22.625	30.154	29.450	…
12月	43.710	22.851	31.390	27.066	…

出所：ＩＥＡ

価格を維持させた他の措置は、パラナ州及びサンタ・カタリーナ州において余剰品の輸出を可能とするため、ICMS（商品流通サービス税）の支払を繰延したことである。しかしこの措置も輸送コストと港湾コストの上昇によってブラジル産品の国際競争力を高めるにいたらなかった。このことは、又東北地方の消費者が国内の余剰ストックがあるゴヤス州より調達するよりもアルゼンチンから輸入した方が、より経済的という結果を生じさせている。

ＣＯＮＡＢ（食糧供給公社）が推定した91／92農年作物の需給バランス（92年３月より93年２月間）によると、国内生産量の増加によって供給量を増加しているもの、年間消費量26.3百万トンを賄い期末に約３ヶ月分の消費量に相当する在庫量を残すためには、150千トンの輸入を必要としている。しかしこの需給予想に対して業界では、国内生産量は、ＣＯＮＡＢが推定している程大きなものではなく、又消費量はＣＯＮＡＢの推定を上廻る可能性があり、輸入需要は、さらに増加しようとする見方もある。

表６３　　とうもろこしの需給　　1.000 t

農　年	期首在庫	生産量	輸入量	供給量計	消費量	輸出量	期末在庫
1985／86	600,0	20.264,1	2.423,6	23.287,7	21.687,6	0,0	1.600,1
86／87	1.600,1	26.758,3	871,2	29.229,6	26.350,2	0,0	2.879,4
87／88	2.879,4	25.223,6	15,0	28.118,0	25.320,0	0,0	2.798,0
88／89	2.798,0	26.266,8	154,9	29.219,7	26.140,0	0,0	3.079,7
89／90	3.079,7	22.257,4	700,0	26.037,1	24.800,0	0,0	1.237,1
90／91	1.237,1	24.041,4	832,2	26.110,7	25.288,0	0,0	822,7
91／92	822,7	31.938,3	150,0	32.911,0	26.299,5	0,0	6.611,5

出所：ＣＯＮＡＢ

92年8月6日に政府が発表した92／93農年に対する農業政策は、基本的に前年度の方針を継続しながらも情勢の変化に応じた一部の改訂が行われた。この中とうもろこしに関しては、次の政策が打出されている。 a）最低価格を実質的に(-) 5％減少する。 b）生産費融資基準額（VBC）の基準とされる1ヘクタール当り反収の量を前年よりも減少する。（前年より少ない生産性でも融資は同率とする） c）VBCの融資枠を拡大する。 d）最低価格に応じて設定されているPLE（在庫放出価格）を時価に調整する。 e）輸出向とうもろこしに対する特別EGF（販売融資）の期限を変更する。

92／93農年の最低価格は、中央・南部地方及びバイア州南部に対してCR 26.369,40／60Kg（92年8月価格US$67,-相当）と決定されたが、これは実質価格でみて前年を5％減少したものであった。最低価格の引下げは、前年並みの生産が行われる場合、余剰品の国内及び国外市場への販売が困難に直面するとのみ通しにもとづくものであった。同様の方法は、フェイジョン及びマンジョカについても行われており、販売が困難なこれら産品の政府買上げを避けるための方法であった。

最低価格、VBC、生産者の規模別分類、その他農業部門にかゝわる価格のインフレに応じた調整方法として政府は、農林及びアグロ・インダストリー基準単位（UREF）を設定し92年8月の1UREFをCR1.000,- とし、以後公式インフレ率（TR）の変動に応じて毎月UREF単位当りの金額を調整する方法を採用した。これにもとづき92／93農年におけるとうもろこしの最低価格は、26,3694 UREF／60Kg又は、0,43949 UREF／Kgと定められた。

とうもろこし栽培に対する農業融資面で採用された制度の変更としてはVBCの基準となる生産性分類（1ヘクタール当りの反収に応じた融資額を設定する制度）を従来の12分類より4分類に縮少したことがあげられる。これは、融資事務の簡素化と反収の向上を図っている生産者により多くの融資を提供することを目的としたものである。又、VBCの融資枠も従来、前年の収穫における反収に応じて多種に区分されていた方法よりわずかに2種、すなわちミニ及び小生産者（年間収入が75千UREFまで）に対しては、VBCの90％、その他の生産者（75千UREF以上の収入）に対してVBCの80％までを融資額とした。他方、前年の収穫において最高反収（2.501Kg/ha～3.500Kg/ha）を得たものに対してはEMBRAPA（ブラジル農牧研究公社）が作成した技術指導者にもとづき、前年以上の経費を必要とする旨を説明した。プロジェクトを提出する場合、80％以上 100％までの融資を受けることが出来ることゝなっている。

とうもろこし、米、フェイジョン、マンジョカ粉、繰綿の政府在庫放出価格（PLE）は、92／93農年の販売期間中、最低価格が調整される毎月1日に同時に通貨価値の修正が行われることゝされた。調整方法は、IBGEが発表するIPCA（拡大消費者物価指数）とし、この指数の発表が行われていない場合は、ゼッツリオ・ヴァルガス経済研究所（FGV）によるIGP－M（総物価指数）を用いることに定められた。とうもろこしの場合、PLEは、過去60ヶ月間の平均価格に10％のマージンを加えたものとされている。92年9月の場合を例にとると中央・南部地方及びバイア州南部の場合CR 46.500,-／60Kgであった。

1992年2月農牧省は、布告第35号をもってEGF（販売融資）の期限満期後もそのまゝ収穫物を生産者の手許に貯蔵し得るようEGF-ESPECIAL（特別EGF）の方法を制度化した。これは、EGFの期限終了に伴ない大量の生産物がAGF（政府の買上げ）に切り替えられるのを防ぐための措置であった。又92年の8月には、通貨審議会の決定により輸出用とうもろこしのEGF-ESPECIALの期限を変更する方法も定められている。すなわちEGF-ESPECIAL最高期限は、93年2月28日までゞあるが、新しい規則では、契約の日より起算して240日間と定め、生産者が輸出のための交渉に必要とする期間を持ち得る方法とした。この方法は、中央・南部地方より北部、東北部に販売する場合にも適用されることゝなった。

とうもろこしの生産コストについてみると、92年7月下旬の価格をベースとしたサン・パウロ州、リベイロン・ペレット地方におけるコストは、1ヘクタールの反収が80俵（4.800 Kg）の場合、1俵（60Kg）当りCR14.535,57 となっている。なおこの中に含まれる金融経費は、中、大農の場合、年12,5％＋TRにもとづくものであり、社会保障費とは、労務費にかゝわる社会保障基金の事業主負担分を指し、保険料とは農業保険(PROAGRO) 料7％によって計算されたものである。

同じくサン・パウロ州アシス地区におけるコストは、1ヘクタール当り75俵 (4.500Kg)の場合でCR15.791,62/60Kg